

# 横浜駅東口駅前空間 デザインコンセプト勉強会（概要）

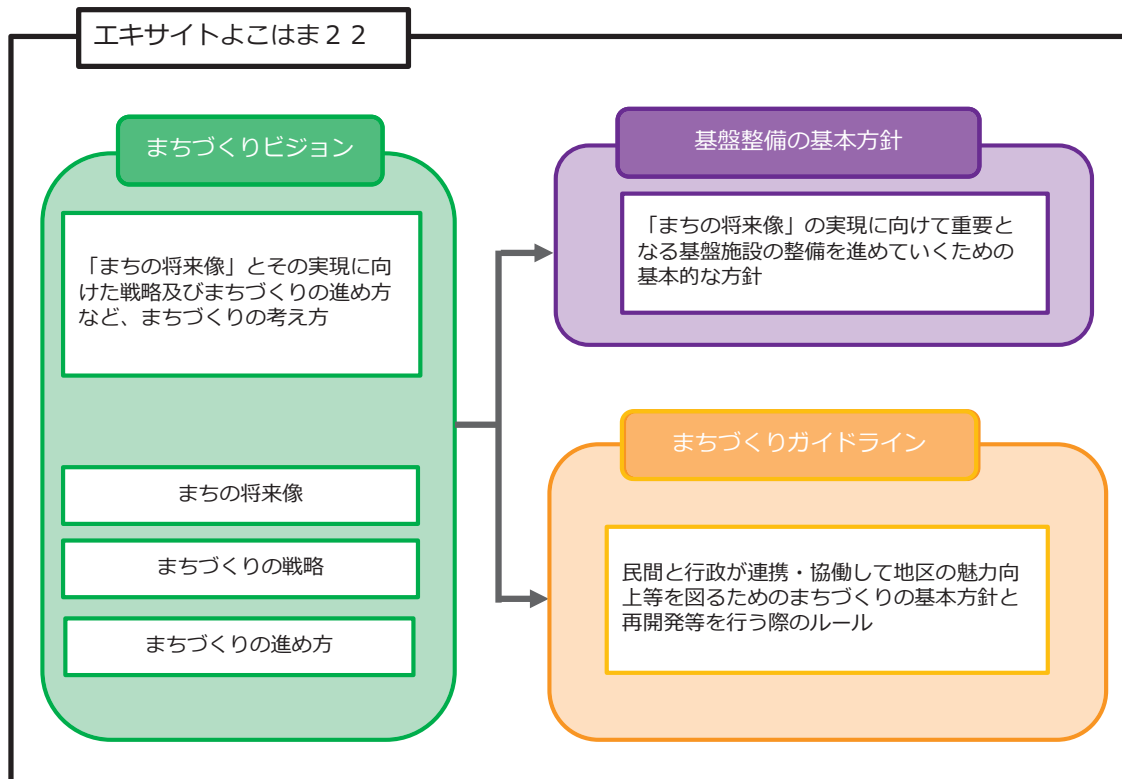
※エキサイトよこはま22 まちづくりガイドライン 東口デザインコンセプトの策定にあたっては、関係者による勉強会を開催し、検討を行いました。この資料は、デザインコンセプトの内容や背景を理解する上での一助となるよう、勉強会での検討の経過等について取りまとめたものです。

## 目次

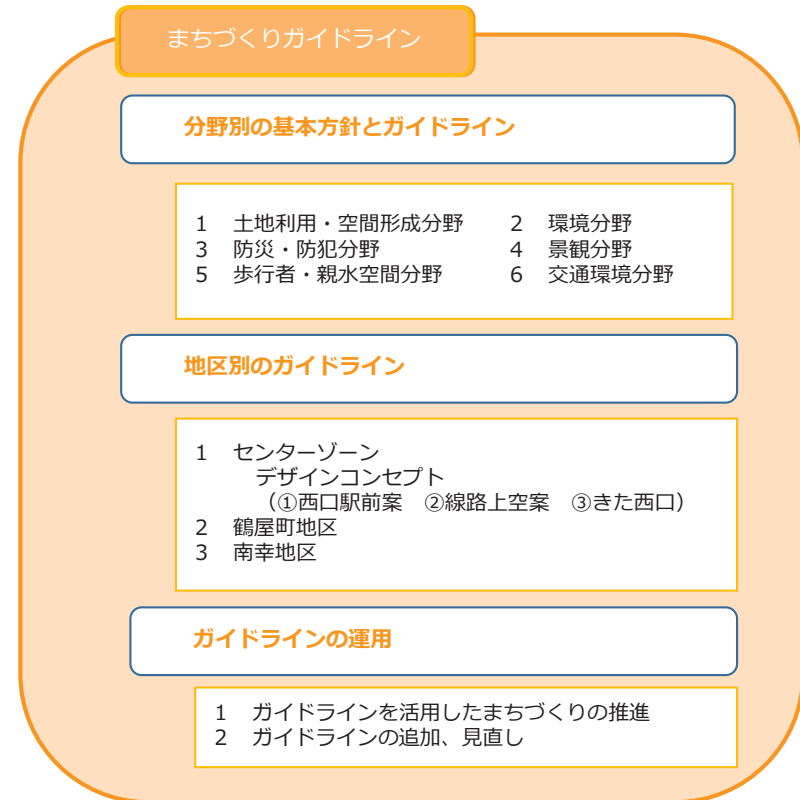
はじめに（趣旨説明）	…… p. 2（第1回勉強会資料より）
勉強会の開催状況	…… p. 4
第1回勉強会	…… p. 5
第2回勉強会	…… p.15
第3回勉強会	…… p.32
第4、5回勉強会	…… p.42
<b>東口デザインコンセプト</b>	<b>…… p.43【計画する際の参考】</b>

# ■はじめに まちづくりガイドラインの構成

・エキサイトよこはま22の構成



・まちづくりガイドラインの構成



・エキサイトよこはま22 対象エリア



**東口にはデザインコンセプトが策定されていない。(平成29年時点)**

## ■はじめに 地区別ガイドラインへの追加について

「まちづくりガイドライン」での記載

地区別のガイドラインについては、今後、地区の開発状況等をふまえ、自治会、事業者、地権者、行政等で構成するワーキンググループを立ち上げて検討を行い、ガイドライン検討会のテーマ別の部会等と調整を行ったうえで、新たな地区での策定や既定の地区での見直しを行います。

**東口デザインコンセプトを策定するための検討を行うために勉強会を立ち上げる。**

### 横浜駅東口駅前空間デザインコンセプト勉強会

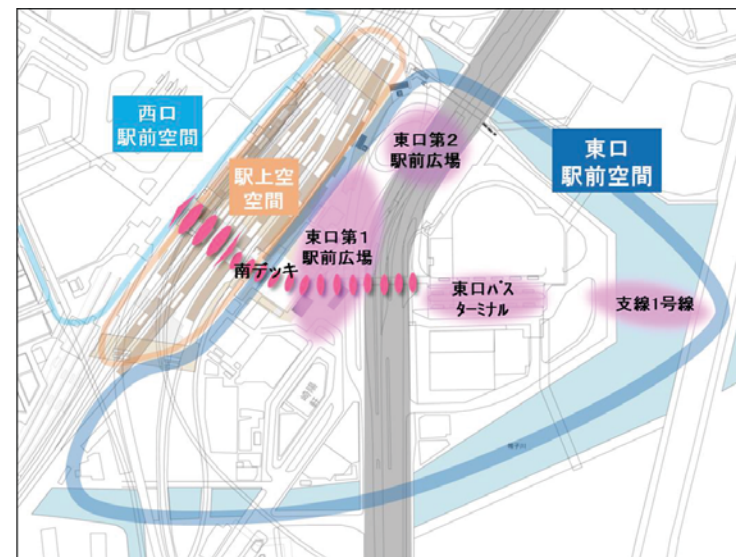
#### 【参加者】

- ・日本郵政 株式会社
- ・東日本旅客鉄道 株式会社
- ・京浜急行電鉄 株式会社
- ・株式会社 崎陽軒
- ・横浜新都市センター 株式会社
- ・株式会社 横浜スカイビル
- ・三菱地所 株式会社
- ・横浜市 交通局 計23名

#### 【オブザーバー】

- ・横浜市 都市整備局 都市デザイン室
- ・独立行政法人 都市再生機構
- ・株式会社 日建設計 計7名

検討対象範囲（東口駅前空間）



#### 【事務局】

- ・横浜市 都市整備局 都心再生課

## ■ 横浜駅東口駅前空間デザインコンセプト勉強会の開催状況

- **第1回（平成29年5月31日）** …… p. 5
  - ・ 上位計画や東口再編コンセプトなどから、東口の特徴を抽出
- **第2回（平成29年8月31日）** …… p. 15
  - ・ 歴史や崎陽軒様からのお話などから、東口で大事にしたいことや起こってほしいことの意見だし
- **第3回（平成29年11月10日）** …… p. 32
  - ・ 駅の周辺エリア、デッキや周辺との繋がり、水辺や親水空間の5グループに分かれて、東口の将来像をイメージするワークショップを実施
- **第4回（平成30年1月15日）** …… p. 42
  - ・ 中間（案）とりまとめ
- **第5回（平成30年2月28日）** …… p. 42
  - ・ 東口デザインコンセプトとりまとめ
  - ・ 今後の進め方（アーバンデザイン部会やガイドライン検討会への付議）

# ■ 第1回横浜駅東口駅前空間デザイン勉強会（平成29年5月31日）

## 1 「上位計画」の内容…… p. 6

- ① 「横浜港港湾計画」
- ② 「都心臨海部・インナーハーバー整備構想」
- ③ 「横浜市都心臨海部再生マスタープラン」
- ④ 「横浜市都市計画マスタープラン西区プラン」
- ⑤ 「エキサイトよこはま22」

## 2 「上位計画」から見えてくるもの…… p. 14

- ① ゲート
- ② 親水
- ③ 回遊

## 3 「東口空間の魅力」についての皆様のご意見…… p. 14

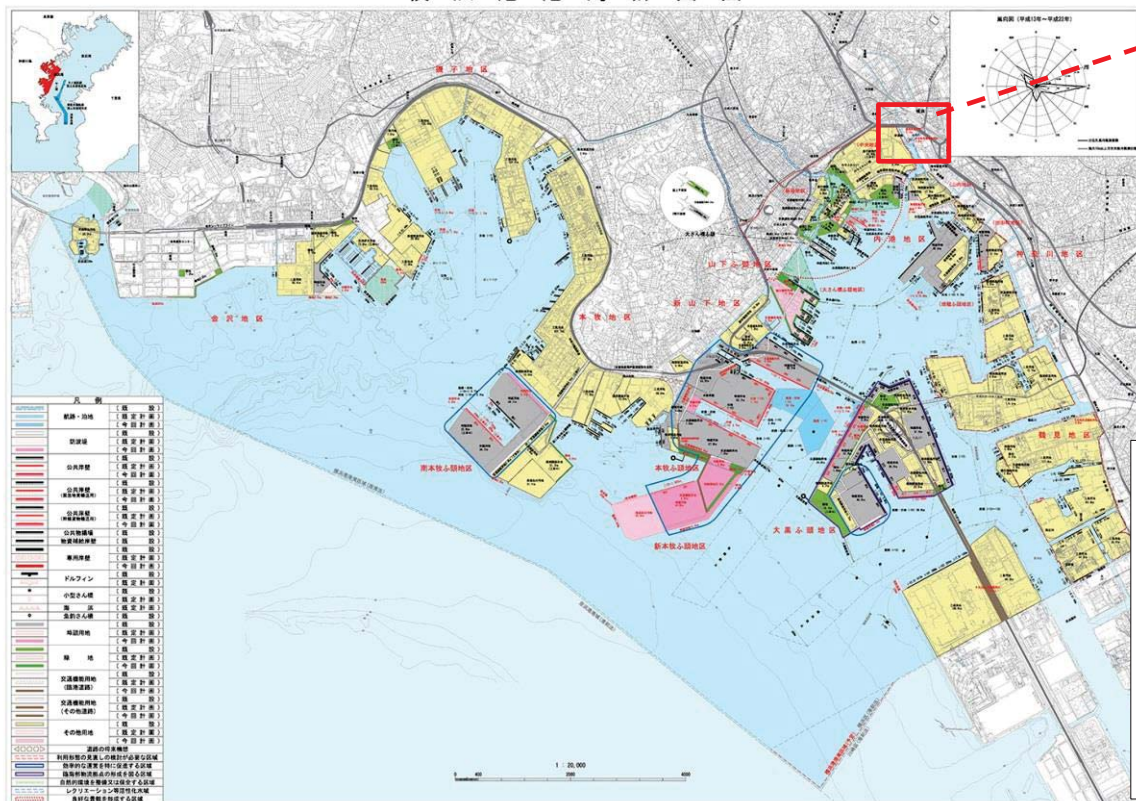
# 「上位計画」の内容

## ①横浜港港湾計画（平成26年12月改訂）

横浜港を計画的に開発・利用・保全するため、港湾管理者である横浜市が港湾法に基づいて定める基本的な計画（平成30年代後半を目標年次）。

市民や来街者への身近な親水空間の提供  
レクリエーション等活性化水域

横浜港港湾計画図



レクリエーション等活性化水域

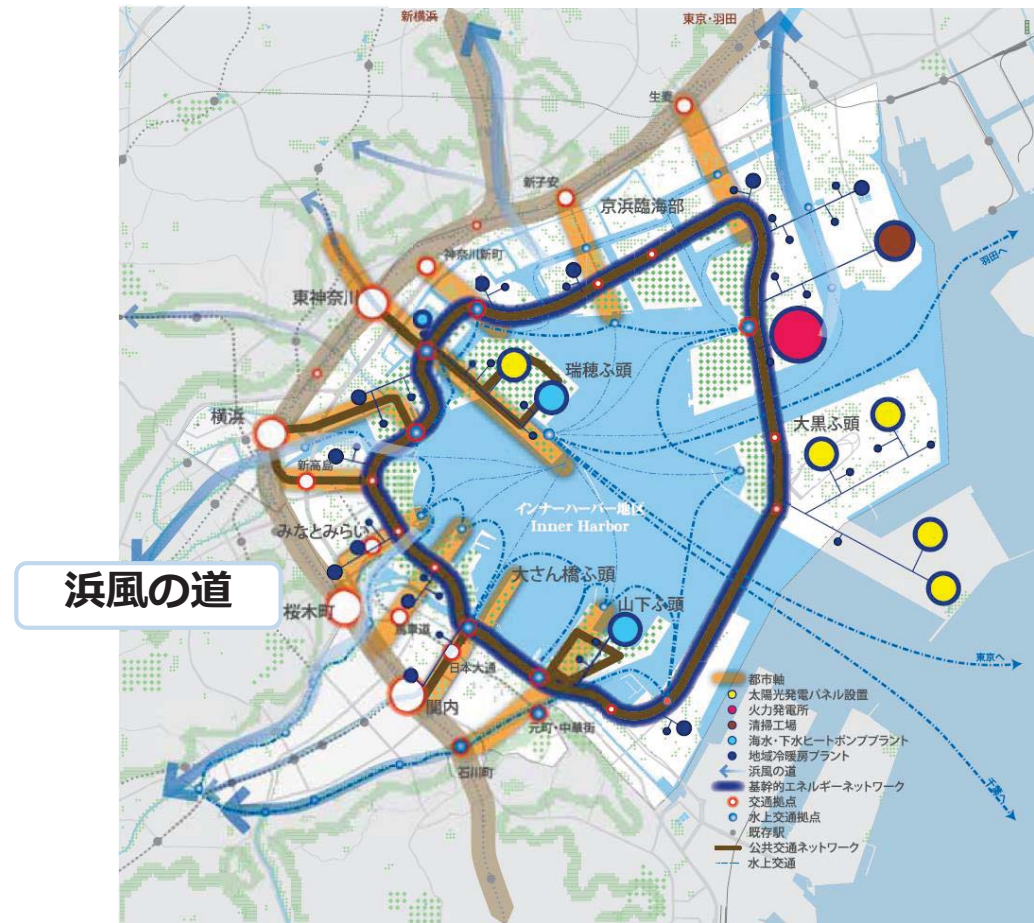
### ●レクリエーション等活性化水域とは

「横浜港の一層の賑わい創出、魅力向上、港らしい風景の形成などを図るため、水域を市民等へ積極的に開放し、カヌー、シーカヤック、トライアスロンといった海洋性レクリエーションの多様な水域利用を促進するとともに、水上交通や観光船を充実させるエリア」

## ②都心臨海部・インナーハーバー整備構想 提言書（平成22年3月提言）

次なる50年を見据えた都市づくりの方向性を明らかにすることに加え、横浜の都心臨海部については、海をいだけ豊かな空間を活かし、横浜市民と世界から集まる多彩な人々が幸福と豊かさを実感できる「海都（うみのみやこ）」としてさらなる発展をとげていくための今後行っていく、様々な政策や計画、事業の根幹としての位置づけ。

インナーハーバー地区の将来構想,戦略



浜風の道

・都市文化を発信し、個性豊かで多彩な人材交流の場を創る

・水上交通や公共交通を中心シームレスな移動

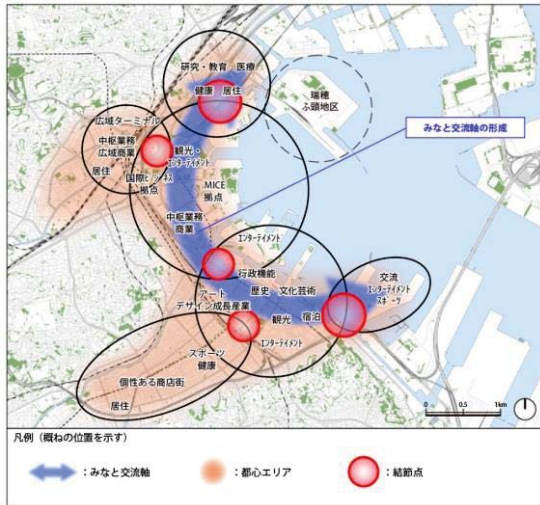
・文化芸術創造都市横浜として世界へ向けて都市文化を発信する

・豊かな水辺の暮らしと水文化を実現

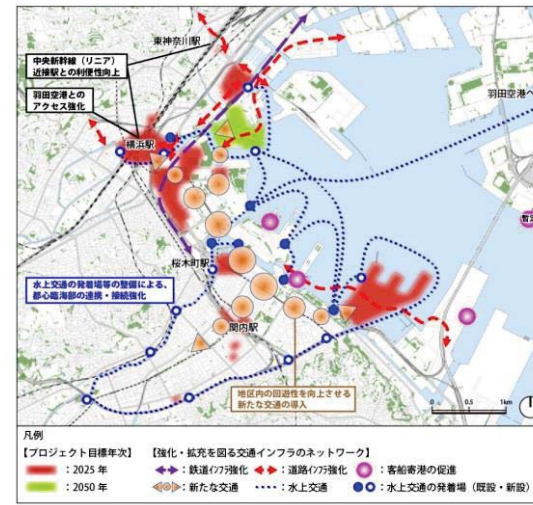
### ③横浜市都心臨海部再生マスタープラン（平成27年2月策定）

将来にわたり輝き続け、魅力にあふれた“世界都市”の顔としての都心臨海部の形成（目標年次は2050年（第一段階は2025年））。

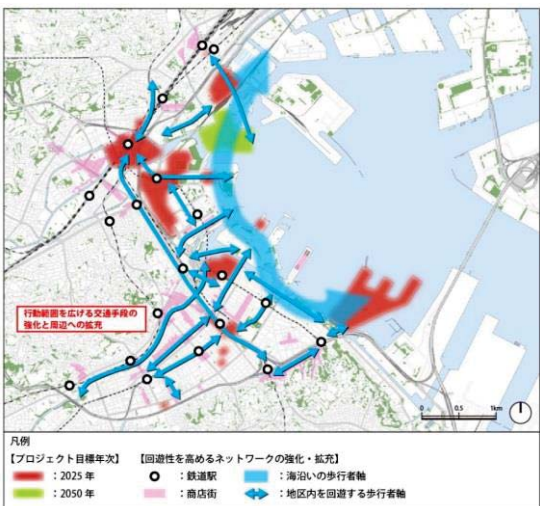
#### 基本戦略 個性豊かなまちの魅力をつなぎ港と共に発展する都心づくり



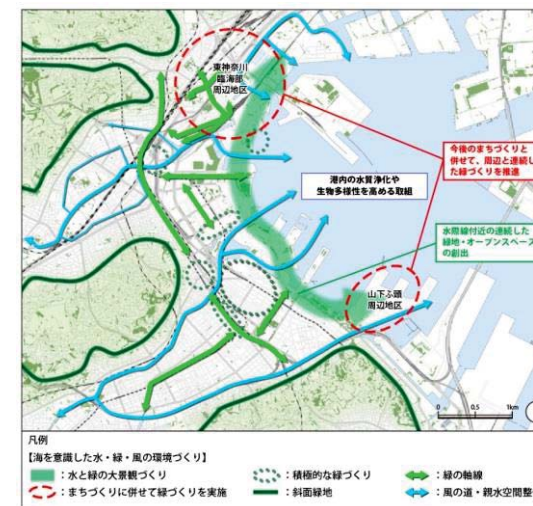
- ★みなと交流軸の形成
  - 魅力的な水辺空間の創出
  - ウォーターフロントエリアの魅力増幅
  - 国内外に横浜ブランドを強力に発信



- ★回遊性を高めるネットワークの強化：主要な交通インフラ
  - 国内外から多くの来街者を迎える水上交通
  - ネットワークの強化・拡充



- ★回遊性を高めるネットワークの強化：歩行者・パーソナルモビリティ
  - 横浜らしさを象徴する水際線へと呼び込む
  - 街歩きを演出するパブリックスペースの充実
  - 歩いて楽しいまちを形成

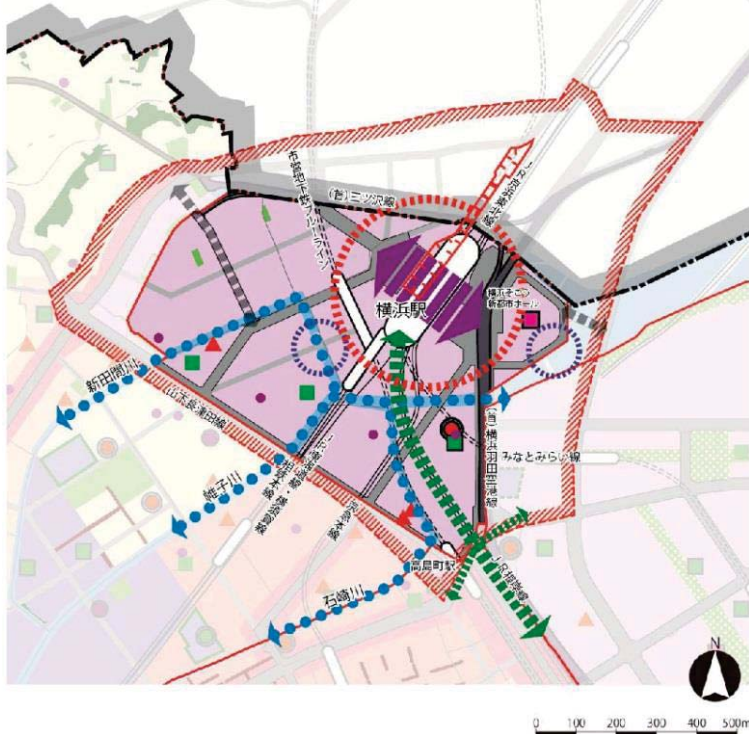


- ★海を意識した水・緑・風の環境づくり
  - 風の道や親水空間を生かした環境づくり



# ④横浜市都市計画マスタープラン西区プラン「西区まちづくり方針」 (平成28年11月改定)

区の将来像を示し、市民と協働でまちづくりを進めていく上での基本方針。



凡例	区界	高齢者対応施設	横浜駅周辺地区まちづくり方針	
	地区区分	障害者支援施設	駅東西が一体となった回遊性の創出(線路上空デッキ、東西自由通路)	
	町丁界	地域活動ホーム・支援センター・サービス事業所等	総合的な交通結節機能(ターミナル機能)の強化	
	河川等	子育て支援施設	地区内交通の円滑化(アクセス道路の整備)	
	鉄道(駅)	保育園・幼稚園	東急東横線跡地の整備と隣接地区との回遊性強化	
	幹線道路	横浜保育室・地域子育て拠点等	水上交通などの導入検討	
	主要な地域道路	コミュニティ関連施設	水辺の軸(河川)にぎわいのある親水空間の形成	
	高速道路	文化・観光・コンベンション施設	エキサイトよこはま22事業エリア	
	土地利用	主な文化・観光・コンベンション施設	横浜の玄関口にふさわしい都市景観の形成	
	都心業務系土地利用		安全で環境にやさしいまちの創造・まちの価値向上を図るエリアマネジメント	
	都心生活緑地系土地利用		エキサイトよこはま22横浜駅西口駅前・鶴屋町地区地区計画	

## ●ターミナル機能と駅を中心とした回遊性の強化

- ① 駅東西が一体となった回遊性の創出
- ② 総合的な交通結節機能の強化
- ③ 都心の回遊性の向上

## ●企業や市民の活動を支える都市機能の充実

- ① 企業活動の場、ビジネスを支える機能の充実
- ② 市民の豊かな生活を支える・文化の拠点づくり

## ●横浜らしさを感じることができる都市景観の形成

- ① 横浜の玄関口にふさわしい都市景観の創出
- ② 河川や通りの個性を生かした都市景観の形成

## ●安全で環境にやさしいまちの創造

- ① 誰もが安心して集えるまちづくり
- ② 世界をリードする環境共生型のまちづくり

## ●まちの価値向上を図るエリアマネジメント

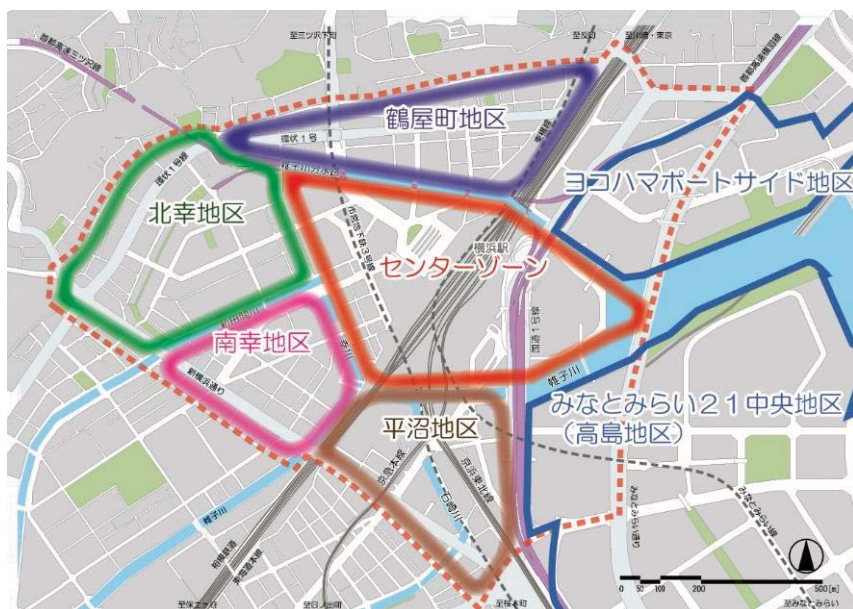
- ① まちづくりのルール、マネジメントの体制づくり
- ② 都心の魅力を実感できるまちづくり

## ⑤エキサイトよこはま22（横浜駅周辺大改造計画）（平成21年12月策定）

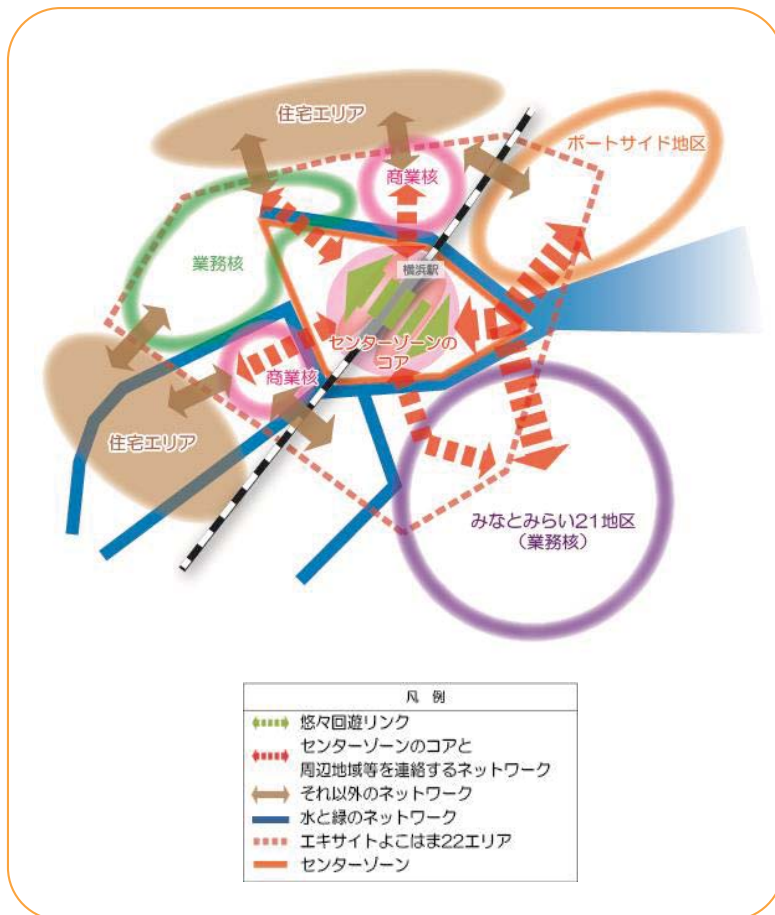
国際化への対応・環境問題・駅としての魅力向上・災害時の安全性確保などの課題を解消し、「国際都市の玄関口としてふさわしいまちづくり」を進めるための指針（概ね20年後）。

### ★テーマ：土地利用、空間形成

＜将来市街地像＞



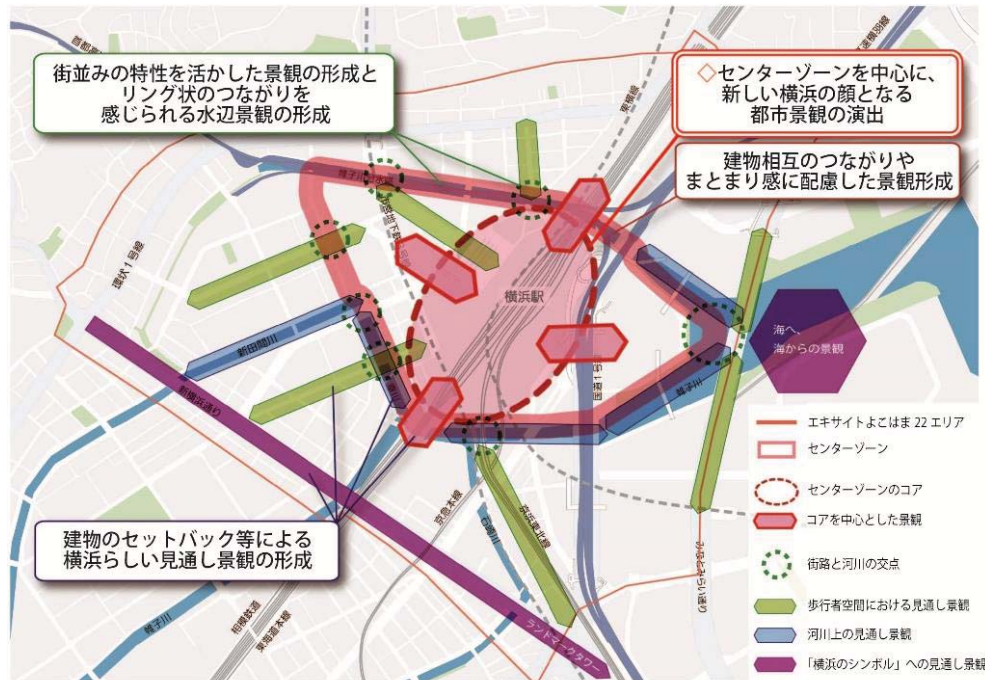
- ・ 国際競争力を持った、アジアを中心とした国際的な交流拠点にふさわしい都市機能の強化
- ・ 広域・国際的なにぎわいを持った商業機能
- ・ 防災機能



- ・ 拠点にふさわしい骨格の形成
- ・ ネットワークの強化

# ★テーマ：景観

## <景観形成イメージ>



- ・ 印象的で魅力ある都市景観の創出
- ・ 地区の特徴を生かした個性ある景観の創出
- ・ MM 2 1 地区やポートサイド地区との接点
- ・ 水辺空間を活かした横浜らしい水辺の都市空間

## <「魅力ある親水空間の景観形成」の例>



親水空間のイメージ

- ・ 水上交通の導入等による、横浜らしい水面を利用したにぎわいの演出

## <「にぎわいのある歩行者空間の景観形成」の例>

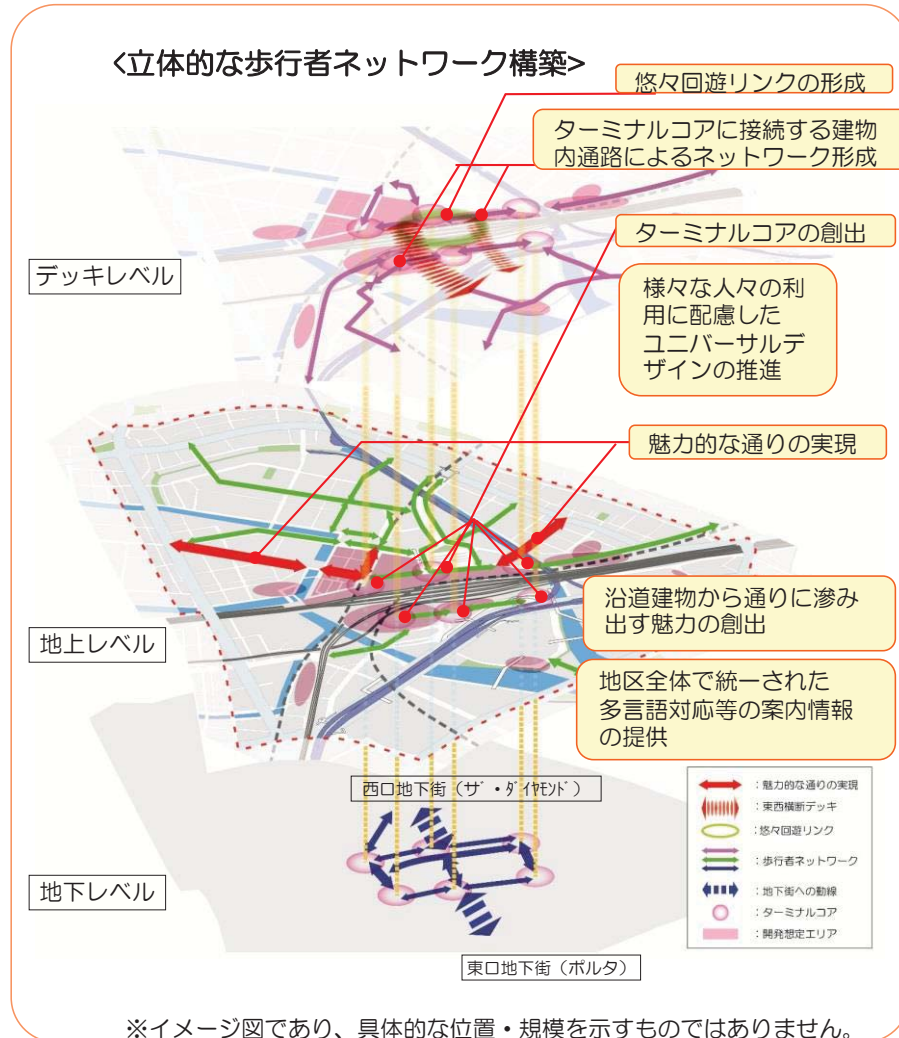


歩行者空間のイメージ

- ・ 拠点空間と、（広場・公開空地・デッキなど）それらをつなぐ回遊空間

## ★テーマ：歩行者・親水空間分野

- 立体的な歩行者ネットワーク構築と魅力ある通りの創出



- 環境豊かな親水空間のネットワークの形成

### ＜親水空間の位置図＞



- 多彩なアクティビティの拠点
- 海を感じられる工夫
- 水上の賑わいの演出

- 魅力ある歩行環境を形成
- ゆとりある歩行空間
- デッキレベルを中心にネットワークを充実

# 東口再編のコンセプト

◆ 「Open Sky Terminal」は基盤整備検討会（平成27年3月19日）で確認

## 横浜駅東口の将来像

# Open Sky Terminal

羽田空港⇄京急線、空港リムジンバス  
成田空港⇄成田エクスプレス、空港リムジンバス



### 横浜の顔として魅力ある空間

- 横浜の観光拠点としての印象に残る景観づくり
- 国際的で多様な交流の生まれる憩いのスペース
- 立体的な一体感を持ち、空への広がりを感じる駅空間

### 災害にも安全安心な空間

- デッキレベルによる見通しのよい避難動線
- 避難場所として認知しやすい空間
- わかりやすくバリアのない歩行者動線

### 国際空港直結・世界への玄関口

- 羽田空港のアクセス強化
- 来街者にもわかりやすいユニバーサルな乗継動線
- 横浜都心臨海部全体へ案内するゲート機能

# ▶ 第1回勉強会での御意見

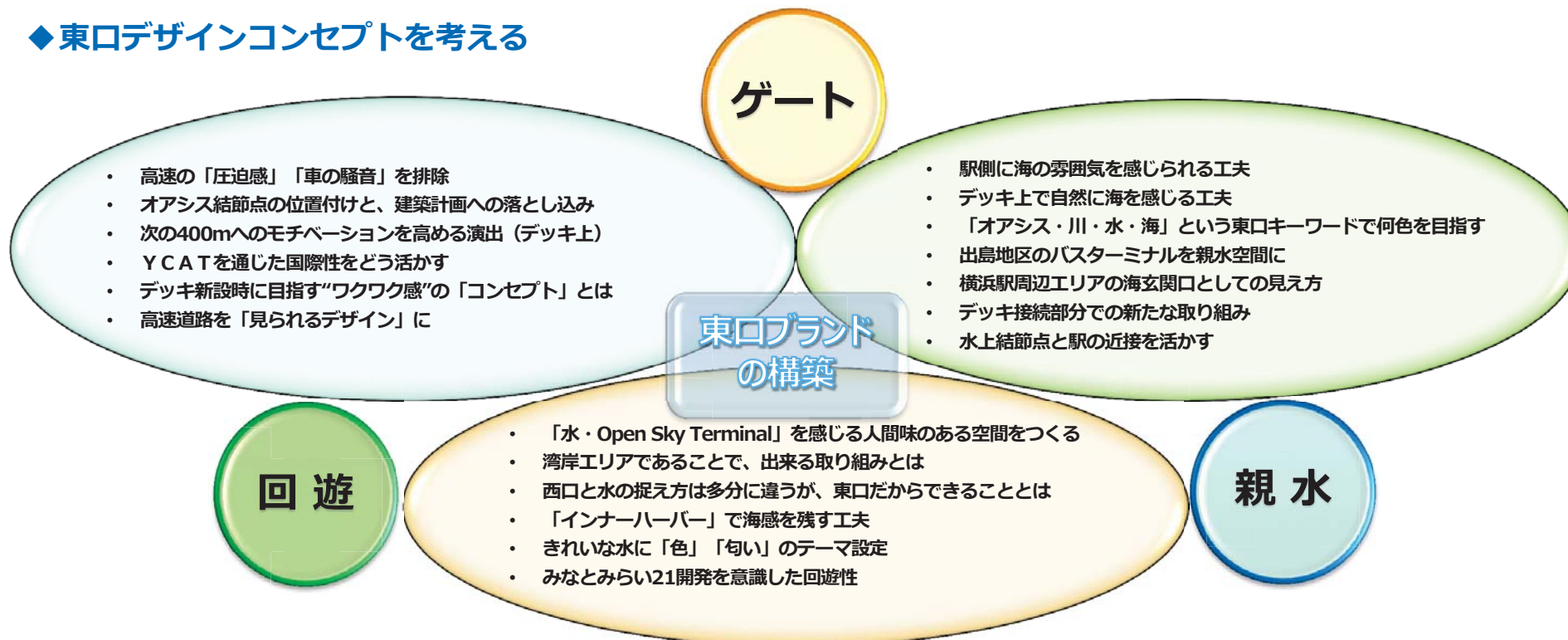
## 議事要旨

- ・ 出島地区のバスターミナルを親水空間として活かすアイデア
- ・ 高速道路を超えて、駅側に海の雰囲気を引き込む・海を感じられる工夫
- ・ 細くなってきている「インナーハーバー」で、海感を残す工夫
- ・ 横浜の開けている港で何が出来るか？
- ・ 水上交通の結節点と駅が近接しているのを活かす
- ・ デッキ上を楽しんでいると自然に海を感じる工夫
- ・ オアシスは「緑や水」をイメージしているが、東口全体のブランドは？
- ・ 東口は海から入り口部分なので、海からの見え方を工夫
- ・ Y C A Tを通じて国際性については身近に感じるが何が出来るか？
- ・ 西口と東口の水の捉え方は多分に違うが、東口だからできることとは？
- ・ 高速道路を「見られるデザイン」にする (ex. 下部をLEDで装飾)

- ・ 皆で同じ方向を目指せる「道しるべ」を持つ
- ・ 地下のイメージではなく「水」「Open Sky Terminal」を感じられる空間にするには？
- ・ デッキを新たに造る際の「高速問題の解消」や「ワクワク感」はどのような「コンセプト」？
- ・ デッキ上部のみでなく、デッキと接触している部分でも何か新たな取り組み
- ・ 400mを苦なく歩け、次の場所へ行ってみたいと思えるモチベーションを高める演出
- ・ 人工的なつまらない空間ではなく、人間味のある空間をつくる
- ・ みなとみらい21開発を意識した回遊性を考える
- ・ 高速道路の「圧迫感」「車の騒音」の排除
- ・ 「オアシス、川、水、海」というキーワードは綺麗でワクワクするが、実際はどんな色？
- ・ きれいな「水」はとても大切なので「色」「匂い」にも理想となるテーマを設定
- ・ オアシスとの結節点を明確に位置付け、建築計画にどのように落とし込んでいくか？
- ・ 他の湾岸エリアはどういった活動に取り組んでいるか確認

## 御意見のまとめ

### ◆ 東口デザインコンセプトを考える



## ■ 第2回横浜駅東口駅前空間デザイン勉強会（平成29年8月31日）

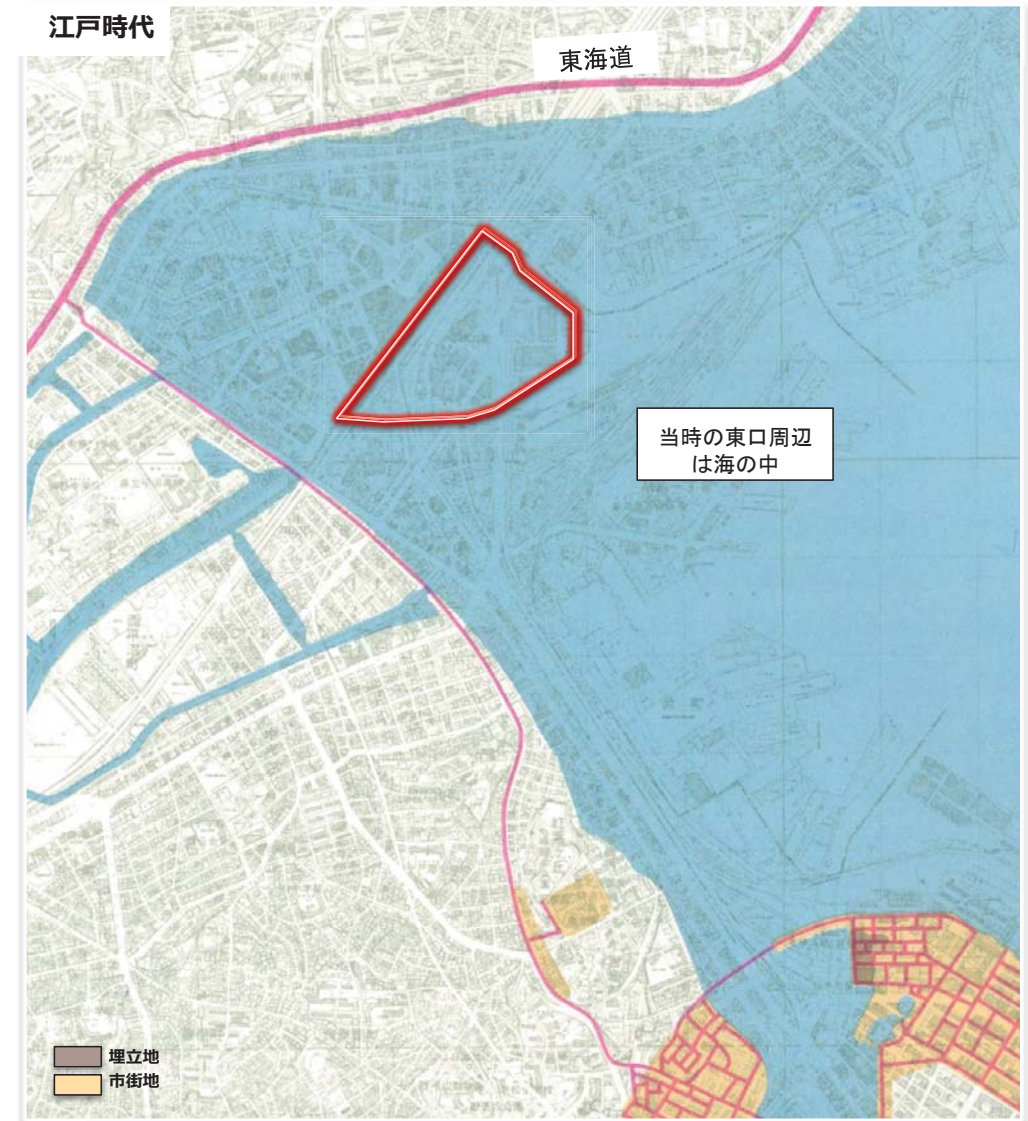
- 1 横浜駅周辺の「歴史の特徴」…… p. 16
  - ①震災、戦災（及び接收）を乗り越えてきた。
  - ②横浜港の埋め立てにより現街区が形成されてきた。
  - ③東口は水辺を中心に発展してきた。
  - ④東口では水辺を市民が親しめる開放的な空間とした。
  - ⑤横浜駅の玄関口・顔は、昔から東口であった。
- 2 崎陽軒様「東口に関する思い出や想い」…… p. 24
- 3 将来のポテンシャル、周辺環境の変化…… p. 24
- 4 「大事にしたいことや起こってほしい事」について皆様のご意見  
…… p. 28

出された意見を、駅の周辺エリア、デッキや周辺との繋がり、水辺や親水空間の3つに分類して取りまとめた。

## ■ 横浜駅周辺地区の歴史 - 1 江戸時代（開港当時）

- 江戸時代、明治維新までは、東海道沿いまで海が迫っていた。
- 神奈川宿とその周辺の寺院が欧米強国の領事館に指定されるなど、海外の玄関口としての役割も担っていた。

- 神奈川湊に近く海陸をつなぐ要所として発達した宿場町「神奈川宿」
- 川崎宿まで約10 km、保土ヶ谷宿まで約5km  
人口5793人（県内9宿中第1位）  
総軒数1341軒（県内9宿中第2位）  
旅籠数58軒（茶屋は除く）



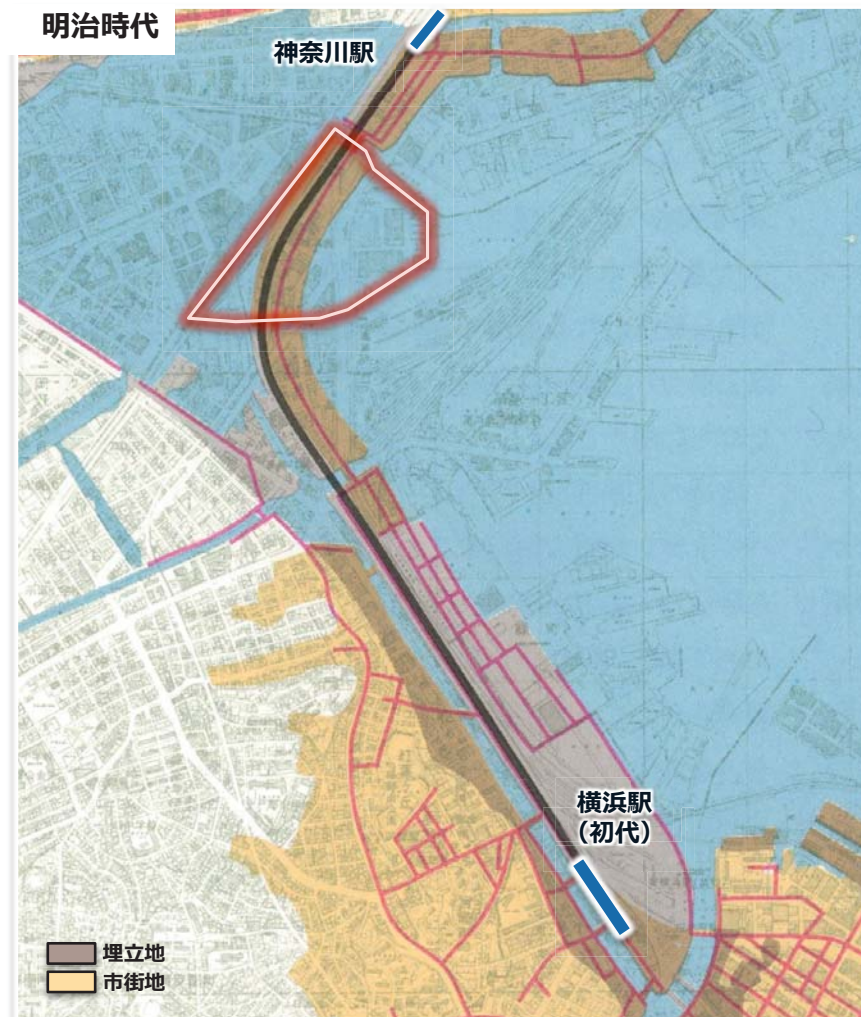
※「港町 横浜の都市形成史（横浜市企画調整局）P. 18」に追記



## ■ 横浜駅周辺地区の歴史 - 2 明治時代

- 明治5年に最初の鉄道が横浜～新橋間に開通した。その鉄道建設にあたり、海を渡る堤を築造した。
- さらに、明治22年には東海道本線が開通した。

- ・ 最初の鉄道が開通して間もない頃「横浜ステーション」と呼ばれていた初代横浜駅（現桜木町駅）
- ・ 明治5年旧暦9月12日、お召列車で到着した明治天皇のご臨席のもと、横浜駅前で開催式典が行なわれた。この日は新暦「10月14日」に当たり、後にこの日が鉄道記念日となる。
- ・ 設計はR・P・ブリジェンスというアメリカ人。造りは木骨石張り二階建て、中央がコンコース、左棟が出札所、上等・中等待合室、二階に貴賓室、事務所などがあり、横浜港と並ぶ日本の表玄関であり、文明開化の象徴であった。



※「港町 横浜の都市形成史（横浜市企画調整局）P. 32」に追記

## ■ 横浜駅周辺地区の歴史 - 3 大正時代

- 大正4年に高島町に横浜駅を移転。大正6年に新港ふ頭完成。
- 横浜臨港貨物線形成→臨海工業都市として発展する基礎ができた。

### ◆ 大正4年8月15日高島町に開業 2代目横浜駅

- ・ それまで東海道線の急行列車は市街地から離れた平沼駅（現相鉄線平沼橋駅付近）に停車し不便であったが、線路を迂回させて2代目横浜駅を現高島町駅（ブルーライン）付近に建設し、初代横浜駅は駅名を「桜木町駅」と改称した。

### ◆ 関東大震災

- ・ 震源地に近い横浜は東京以上の激震に見舞われ、横浜市内の死者は2万3000人余りで当時の人口の5.4%で東京市の2.8%を大きく上回る大惨事であり、横浜駅周辺は焼け野原と化した。
- ・ 幕末以来整備されてきた港湾は崩れて焼失し、横浜駅周辺も大きな被害を受けた。この復興にあたり、横浜駅はさらに新しい場所へと移転し建設されることとなった。



※「港町 横浜の都市形成史（横浜市企画調整局）P. 56」に追記

## ■ 横浜駅周辺地区の歴史 - 4 昭和初期～接收

- 昭和3年、3代目横浜駅が現在地に開業した。
- 当時、駅の西側は港湾資材置場で、東側は港湾埋立て地区で、海側には高島機関区の大きな機関庫が望まれた。

### ◆ 昭和3年10月15日に開業した3代目の横浜駅

- ・ 駅の敷地はライジングサン石油会社の油槽所の跡地などである。
- ・ 駅舎は鉄筋コンクリート造りの二階建てで、当時としては壮大な建物だった。
- ・ 『横浜貿易新報』では「東洋一新横浜駅」「大横浜文化の大玄関」とその開業が報じられている。

### ◆ 横浜大空襲

- ・ 横浜の中心部は昭和20年5月29日の大空襲により、一面焦土と化した。
- ・ 戦後は横浜市を中心部や港湾エリアの土地や施設が米軍に接收された。



※「港町 横浜の都市形成史（横浜市企画調整局） P. 68、P. 83 」に追記

## ■ 横浜駅周辺地区の歴史 - 5 昭和中期～後期

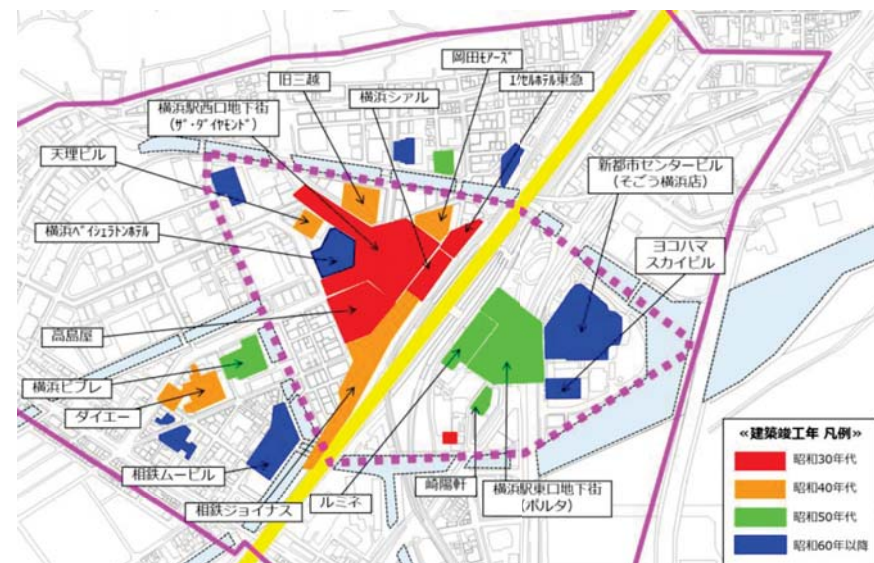
- 昭和27年以降、接收解除された西口では、川の埋立てを伴う土地区画整理事業が実施され、大規模商業施設が建設された。
- 横浜の顔であった東口では、西口開発から20年程のちに、大規模商業施設の開発が始まった。

• 土地区画整理事業施行の頃の写真をみると、南幸と北幸の新田間川周辺では、埋立てが進んでいる様子が見える。

- 昭和58年「みなとみらい21」事業起工式。
- 昭和61年にシーバスの運行が開始されたが、今日みられるような親水空間はできていない。



※「港町 横浜の都市形成史 (横浜市企画調整局) P. 96」に追記



## ■ 横浜駅周辺地区の歴史 - 5 平成以降

- 東口周辺ではみなとみらいやポートサイド地区の開発により、水を意識したまちづくりが進められた。
- 東口と山下公園から運航が始まったシーバスは次々と乗船場が増設された。
- ピア象の鼻からは麒麟ビール工場見学が付いたクルーズや、様々な季節限定のものが催されている。また、tvkハウジングプラザと西口駅前棧橋を結ぶテストクルーズが実施されている。
- 成田・羽田国際空港とはYCATからの高速バスや鉄道からのエアポート急行などの多様な交通手段により、気軽に直接的に往来できるようになった。



平成5年頃



平成30年撮影

# ■ 横浜駅周辺地区の歴史 年表 - 1



- 1952 (昭和27) 年 岡野地区戦災復興土地区画整理事業開始 (接收解除)
- 1955 (昭和30) 年 横浜駅前にR C造三階建の崎陽軒シウマイショップ竣工 東口の誕生!
- 1956 (昭和31) 年 横浜駅名品街開業** 西口の誕生
- 1959 (昭和34) 年 横浜高島屋開業
- 1962 (昭和37) 年 横浜ステーションビル、横浜東急ホテル開業
- 1964 (昭和39) 年 ダイヤモンド地下街、横浜駅西口地下駐車場完成
- 1968 (昭和43) 年 スカイビル開業
- 1973 (昭和48) 年 相鉄ジョイナス、天理ビル完成
- 1975 (昭和50) 年 「クイーン・エリザベス2世号 (QE2)」初入港 大型客船寄港
- 1980 (昭和55) 年 東西自由通路完成、ルミネ、ポルタ開業
- 1983 (昭和58) 年 みなとみらい21事業起工式 MM21開発開始
- 1985 (昭和60) 年 横浜そごう (横浜新都市センタービル) 開業
- 1986 (昭和61) 年 シーバス運行開始【横浜駅東口~山下公園】 水上航路の始まり
- 1988 (昭和63) 年 相鉄ムービル開業
- 1991 (平成3) 年 みなとみらい乗船場設置 乗船場増設  
横浜国際平和会議場竣工
- 1993 (平成5) 年 横浜ランドマークタワー竣工 ポートサイド  
地区開発の幕開け
- 1994 (平成6) 年 ヨコハマポートサイド地区第二種市街地再開発事業の建物竣工
- 1996 (平成8) 年 横浜スカイビル開業  
横浜シティ・エア・ターミナルが、ポートサイド地区から横浜スカイビルに移転
- 1998 (平成10) 年 横浜ベイシェラトン開業
- 1999 (平成11) 年 ポートサイド公園供用開始 親水公園 羽田空港への  
窓口がより駅近くに

# ■ 横浜駅周辺地区の歴史 年表 - 2



- 2002 (平成14) 年 横浜港大棧橋国際客船ターミナルオープン
- 2004 (平成16) 年 みなとみらい線開通  
赤レンガ倉庫乗船場設置 乗船場増設
- 2006 (平成18) 年 横浜バイクォーター開業 水に顔を向けた建物
- 2007 (平成19) 年 きた通路完成 MM21との関係強まる
- 2008 (平成20) 年 南北連絡通路全面供用開始
- 2009 (平成21) 年 みなとみらいウォーク、ポートサイド人道橋（バイクォーターウォーク）完成  
日産自動車グローバル本社ビル完成 グローバル化が進む  
トライアスロン世界選手権シリーズ横浜大会開催【山下公園】
- 2010 (平成22) 年 みなみ通路完成 羽田空港への利便性UP レクリエーション本格活用  
エアポート急行運行開始
- 2011 (平成23) 年 幸川 浮き棧橋接岸 ⇒河川活用の第1歩
- 2014 (平成26) 年 羽田空港船着場とぷかり棧橋を結ぶ水上航路開設 親水窓口+水上航路  
「はまマネ協議会」による各団体イベントに対する支援実施の開始（抜粋）
  - ・横浜ビブレ周辺での「横浜西口夏まつり」
    - ①ビブレ前広場、②タワーレコード前広場、③パルナード通り、④帷子川、幸川
  - ・横浜西口今昔写真展
  - ・はまテラスでの「スカイビル・リサイクルマーケット」「コンサート」「ココカラ・リオネ」
  - ・tvkハウジングプラザ横浜と横浜駅西口を結ぶ定期便のテストクルーズ
- 2016 (平成28) 年 キリンビール工場棧橋と象の鼻パークを結ぶ水上航路開設 水上航路の展開

# ■ 歴史、将来のポテンシャルなどから見えてきたこと

上位計画から見えてきたもの

ゲート  
親水  
回遊



歴史（時間軸）から見えてきたもの

- ・震災、戦災（及び接收）を乗り越えてきた。
- ・横浜港の埋立により現街区が形成されてきた。
- ・水辺を中心に発展してきた東口。
- ・東口では水辺を市民が親しめる開放的な空間としてきた。
- ・横浜駅の玄関口・顔は、昔から東口であった。



将来の展望（全体）

- 人口減少
  - ・賢いストックの使い方が求められる
  - ・量より質の時代へ「街全体の質の向上」
- 世界への窓口拡大
  - ・ラグビーワールドカップ開催（決勝地＝横浜）
  - ・東京オリンピック・パラリンピック開催
  - ・羽田国際空港増便（国際ハブ空港化）
- 国際競争力強化に向けた取組
  - ・都心の再開発の活性化
  - ・グローバル化の進展
  - ・「観光先進国・日本」を目指して

東口の特徴と将来のポテンシャル

- 水上航路拡大
  - ・羽田空港定期便、屋形船、帷子川周航
  - ・キリンクルーズ増便
  - ・港湾クルーズの発着点に東口を追加
- 横浜観光の窓口
  - ・駅前広場の再編
  - ・LRTなどの新たな交通機能を導入
  - ・高度化バスシステム、連節バス運行
  - ・大型客船（大栈橋）から東口駅迄の輸送
- 水へ目を向けた開発・建物
  - ・出島開発、オアシス開発
  - ・横浜バイクオーター
  - ・日産グローバル本社ギャラリー

前提のまとめ

- ✓ 水上・水辺空間を活用
- ✓ 横浜駅の交通発着点の特性を活かす
- ✓ 街の質を向上させる
- ✓ 世界やグローバル化を意識

## 崎陽軒様からのお話

崎陽軒が「日本一」になるまで

- ・明治41年に横浜駅1代目の構内で弁当販売を開始したのが崎陽軒の始まりであり、**工場は常に駅側近であることが重要であり、二代目、三代目と駅舎が移転するに伴い崎陽軒本社も移転した。**
- ・明治時代はお弁当がたくさん売れたが、大正4年に2代目横浜駅が移転してからは通過駅となって、売り上げが減少した。関東大震災（大正12年）の後、このまま横浜駅で商売を続けていくには、**何か新しいアイデアで横浜物になるようなものを生み出さなければ**という事で、約2年の歳月をかけて**冷めても美味しいシウマイを開発**した。結果、念願の**新しい名物が誕生**したのが昭和3年である。
- ・戦中は一時は販売を中止していたが、戦後に販売を再開する際には、女性を販売員として起用する事となった。昭和26年、**チャイナ服でシウマイを車窓越しに売り出したのが好評で、3年後の昭和29年にはシウマイ弁当として販売**を始めた。
- ・しかし、新幹線が開通してからは長距離列車が新横浜駅に移転し、売店形式になった。**売り上げが落ちると百貨店でも購入できるよう、販売する範囲を広げていった。**
- ・このような歴史を振り返ると、売り上げが落ちた際に横浜を離れるのではなく、「**横浜駅で何ができる？**」や「**ここで商売を続けるのには何が必要？**」を常に考え、それが**足りなければつくってしまおうという発想が、成功の鍵**だったと思う。
- ・現在もお弁当の売り上げは好調で、一日約2万3千食が売れており、**駅弁の売り上げとしては日本一**。そして、崎陽軒の弁当作りには欠かせない、梅干しやマグロ、手作りのオリなども、毎日、同数の発注をするわけであり、**崎陽軒のお弁当が毎日大量に売れることで周囲に及ぼす良い影響はとて大きい**と感じる。
- ・「**無いなら作る**」という発想から始まり、皆様からのご支持をいただくと、これだけの力になるという事を常に実感してきた。
- ・新しい横浜駅になっても、**崎陽軒としては変わらず横浜駅に隣接したところで商売を続けていきたい**と思っている。また、皆様と一緒に横浜の新しい名所づくりや、名物づくりに参加できることを心より嬉しく思っている。

株式会社崎陽軒 君塚取締役 横浜事業本部長

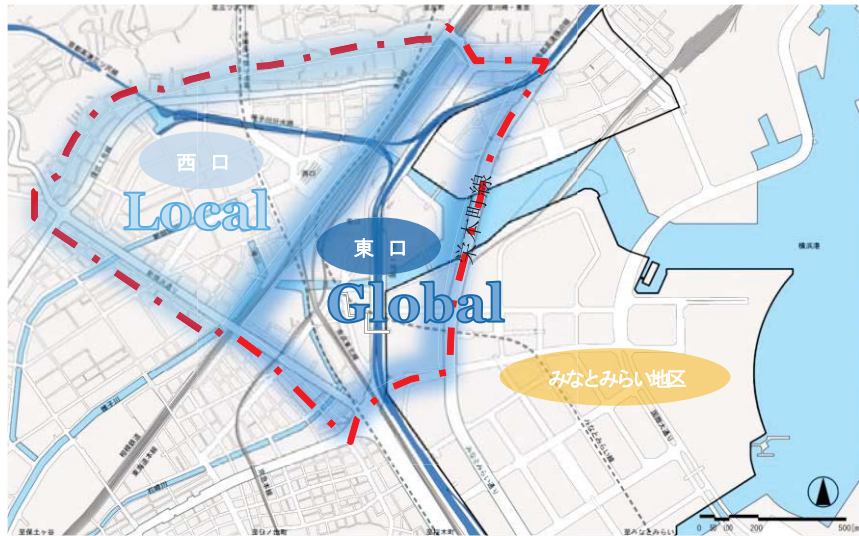


# ■ 周辺環境の変化 – 1 (環境変化に対応できるまちづくり)

## 量から質を求められる時代へ

- 横浜市においても人口減少に伴い少子高齢化が進んでおり、物や空間への価値観が変化していく傾向にある。
- 今後は「賢いストックの使い方」が求められる時代へと変化していく。

## 横浜駅東西の比較



### 西口

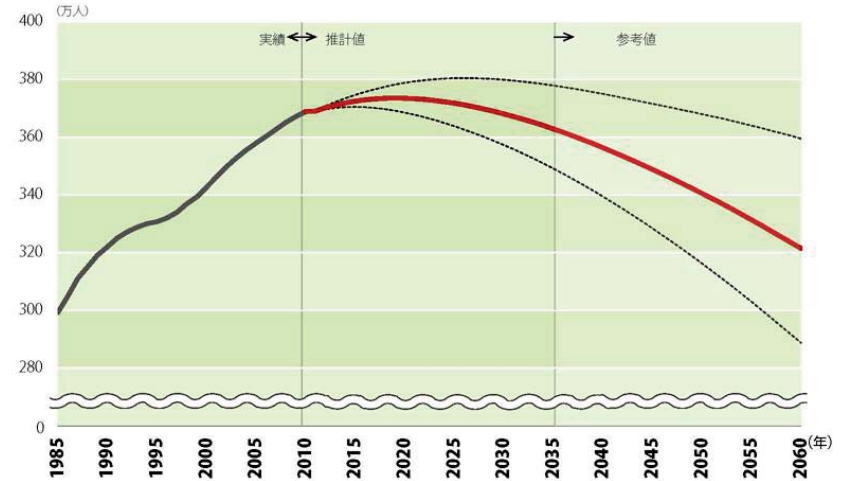
- 街区の大きさが比較的小さいエリア
- 商業業務・飲食・教育・アミューズメント機能が充実
- 昼夜ともに、多種多様な人々の賑わいがある
- 地元出身の住民が多く、街に程良いローカル感がある
- 繁華街を囲む様に住宅エリアが山の手まで浸透している

### 東口

- 街区の大きさが比較的大きいエリア
- 大規模で近代的な商業施設、オフィスビルが多い
- 港に面し海に開けた、開放的な公共空間
- 観光やMICE機能を持つ、みなとみらい地区への玄関口
- 首都高速と国道1号で多方面からの交通アクセスが良い
- 国際空港から直結しており、国際的な利便性が高い

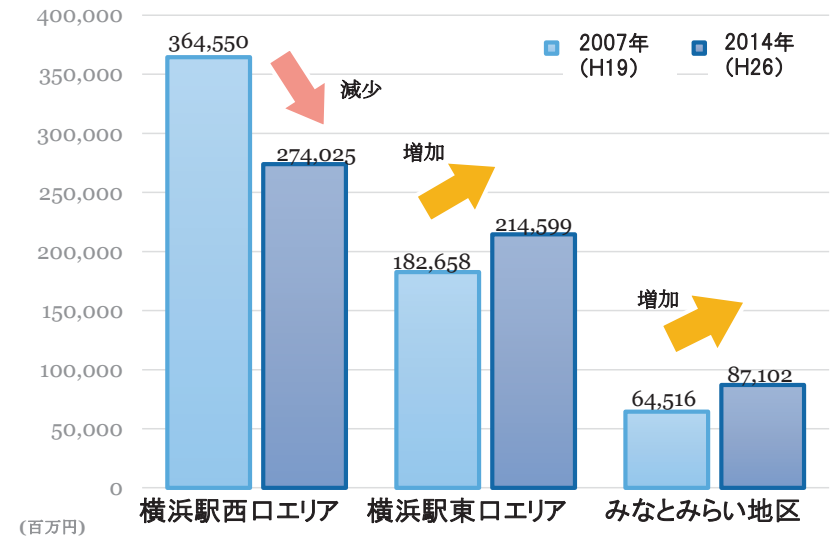
## 横浜市の将来人口推計

出典：横浜市政策局HP



## 周辺小売業年間売上高 比較グラフ

出典：経済産業省HP 商業統計立地環境特性格別統計編 (小売業)



# ■ 周辺環境の変化 – 2 (世界的イベント開催や国際化のポテンシャル)

## 2019年 ラグビーワールドカップ

- 横浜は2019年に日本で開催される「ラグビーワールドカップ2019」の決勝戦の地として選出され、会場は「横浜国際総合競技場」が使用されることに決定した。
- 昨今、世界でもその活躍が話題となった日本ラグビーチームの人気の波にも後押しされ、今まで以上に横浜の街は国際的に注目を浴びることが予想される。

## 2020年 東京オリンピック・パラリンピック

- 「東京2020オリパラ」に追い風を受けて、東京圏のなかでも横浜と直結している主要駅周辺では様々な開発が進行中である。
- 昨今の開発の傾向としては、街全体がエリアマネジングされているケースが多くみられ、今後は個別のビル間の競争だけでなく、周辺エリアも含めた「街全体の質の向上」が求められると推測される。

## 東京圏や羽田空港と直結の強み

- 東京圏の国際競争力の強化が進んでいるなか、羽田国際空港においても大幅な拡張工事が行われ、処理機能の強化が図られた。
- 東京に隣接する横浜においてもそれらの影響を多大に受ける可能性があり、特に横浜駅東口は陸海ともに東京圏や成田および羽田国際空港と直結しているため、今後は更なる国際色豊かな利用客が増え、ハブ（発着点）としての需要が高まると見込まれる。

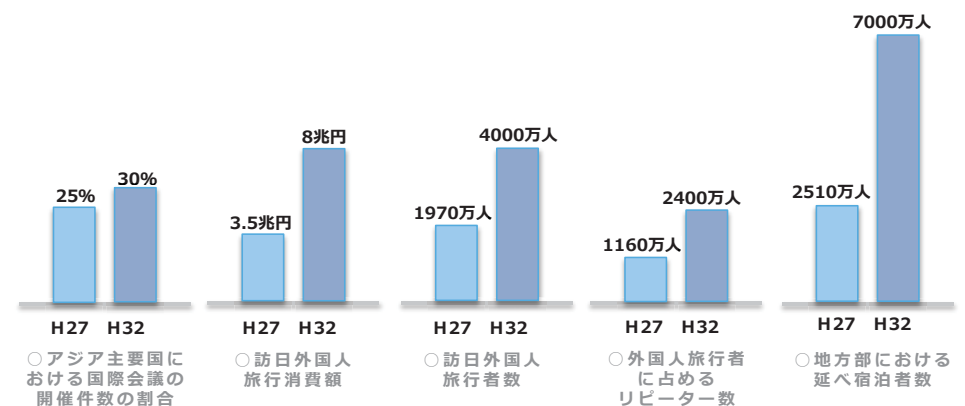
## 羽田国際空港の更なる発展

出典：TIAT

- 羽田国際空港においては、国際線ターミナルの拡張を行い、航空機が横付けするスポット数を10から18へと大幅に拡大し、H26年3月より国際線の発着枠を3万回分増枠した年間発着枠45万回化を実現した。
- 国際線乗り継ぎの利便性が格段に向上したことにより、シンガポールや韓国などのアジア大型ハブ空港と並ぶ充実した施設が新設され、今後は「国際ハブ空港」としての羽田国際空港の存在感がさらに強まる。

## 世界が訪れたい「観光先進国・日本」を目指して

- 「東京2020オリパラ」の円滑な開催や、更にはその先に拡大する世界の観光需要の受け入れを見据え、インバウンド消費の拡大とその効果を全国津々浦々に届けるために、観光庁は平成32年までを計画期間とした観光拡大目標を立てて取り組んでいる。



# ■ 周辺環境の変化 – 3 (水辺のポテンシャル)

## 港湾エリアと水際空間

- 東口から繋がる横浜港湾エリアでは、様々なクルージングイベントが開催されており、年々その賑わいを増している。その一方、東口から発着している船は今のところ1種のみであり、今後のポテンシャルはとても高い。
- 水際空間の活用としては、東口エリアの水際は比較的余裕がある空間形成となっており、多種多様な演出・エンターテインメントが考えられる。

## 横浜ふかりさん橋～羽田空港船着場～ お台場海浜公園棧橋に新たなアクセス

- 横浜～羽田～お台場間に新たなアクセスとして2014年夏から定期便が開始。羽田空港付近では頭上間近で繰り広げられる航空機のダイナミックな離発着を臨場感たっぷり味わえ、日本四大工業地帯のひとつ京浜工業地帯の昼景や幻想的な夜景を楽しめる航路となっている。

## 「日本一の港風景」を巡るクルージング

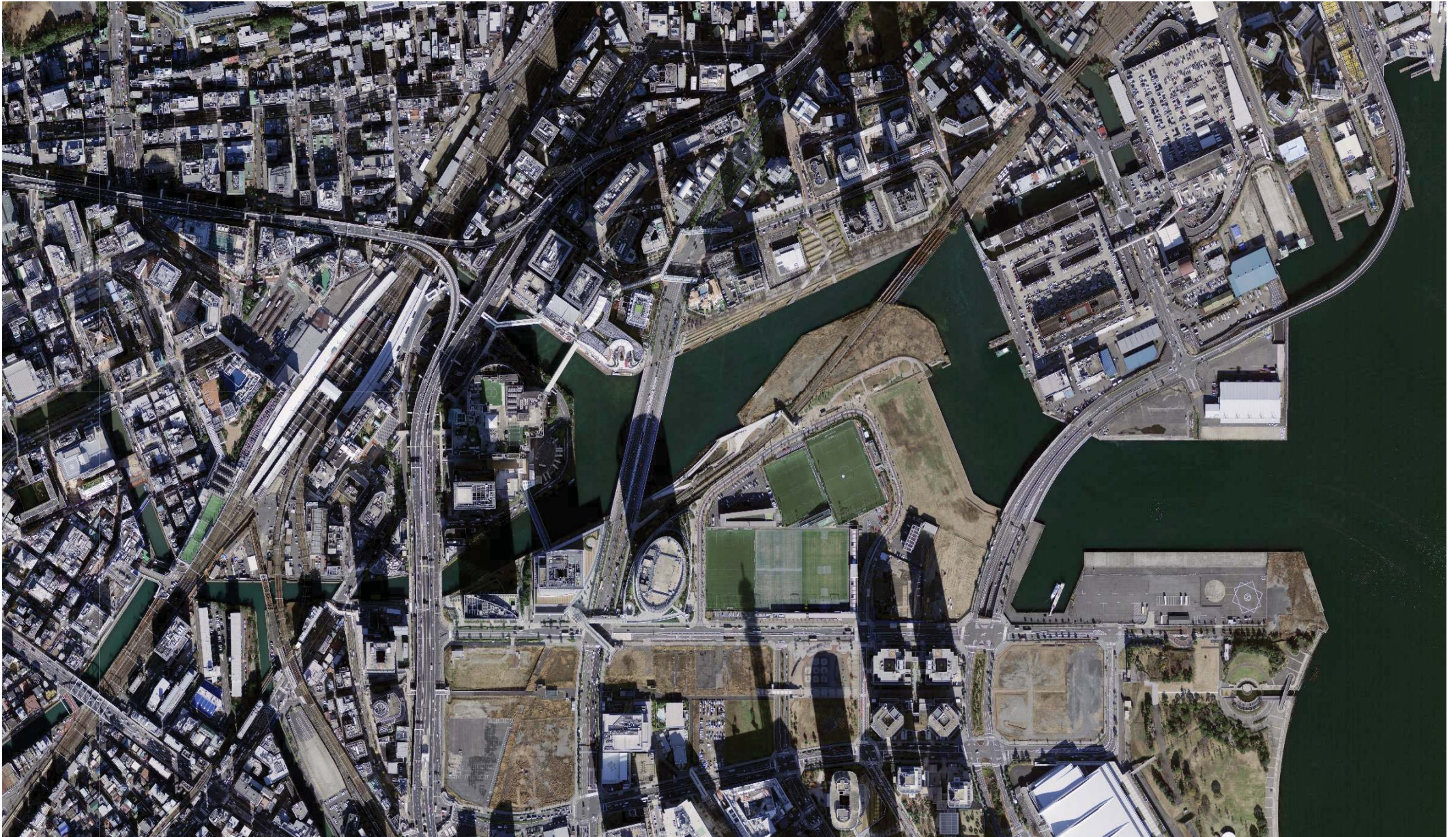
- 東口からは、みなとみらい～赤レンガ～山下公園間を結ぶ横浜の観光名所を海上から巡ることができる水上バス「シーバス」が人気で、山下公園からは、夜景ディナーやライブショーを楽しむことができる「マリーンシャトル」「マリーンルージュ」など多種多様なクルージングが開催されている。

## 国内最大の豪華客船「飛鳥Ⅱ」が 世界一周クルーズを来春に再開

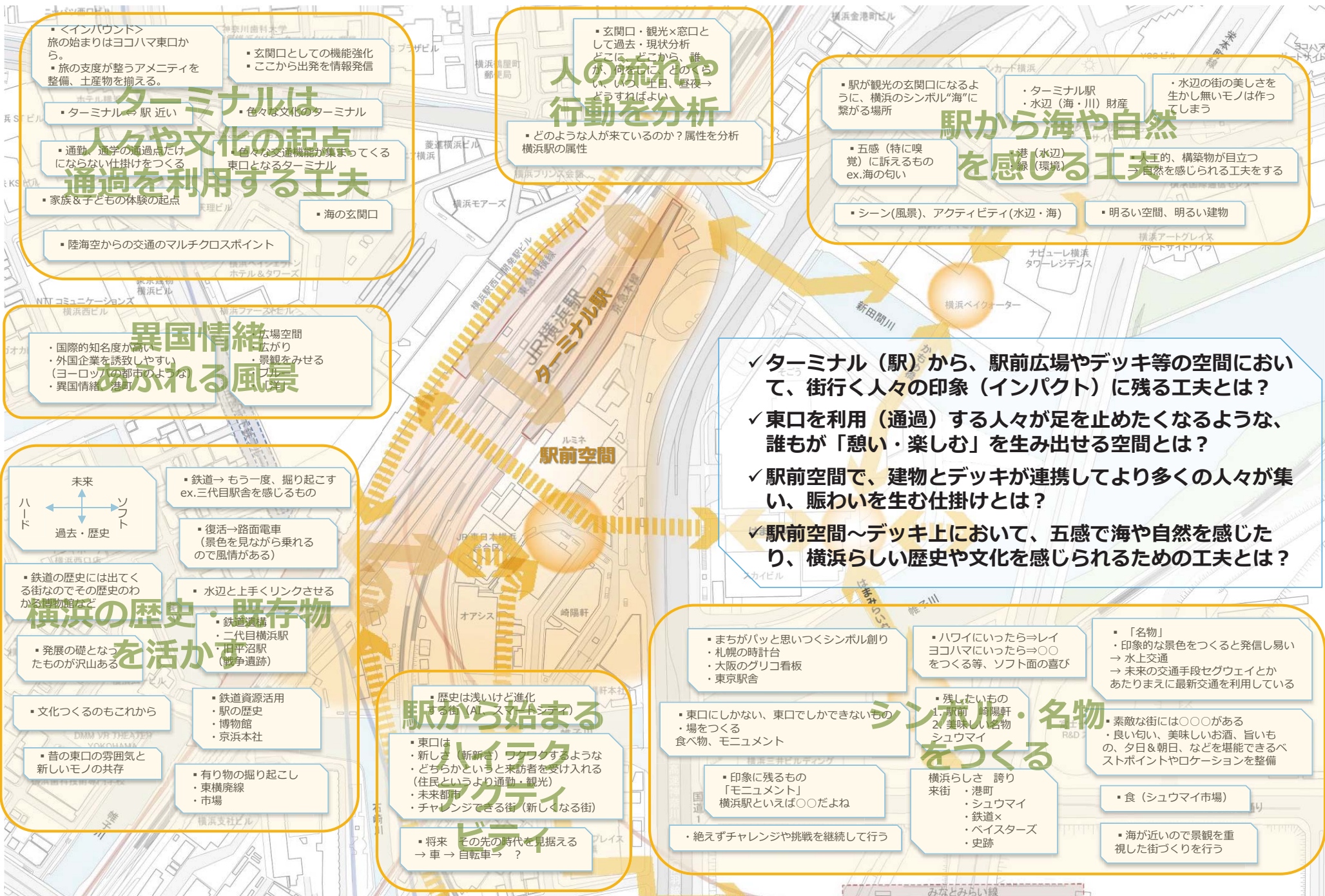
- 郵船クルーズは横浜港を発着とする「飛鳥Ⅱ」(乗客定員872人)の世界一周クルーズを2018年3月に再開し、乗船券は発売初日にほぼ完売した。国交省の調査によると、2016年の日本人クルーズ利用者数は前年比12.4%増の24万8千人と過去最高を記録しており、大型客船で観光地を周遊する船の旅が日本でも身近な休暇の過ごし方として定着してきている。

## ■ 「大事にしたいことや起こってほしい事」 について皆様のご意見

駅の周辺エリア、デッキや周辺との繋がり、水辺や親水空間



# 「駅の周辺エリア」で大事にしたいこと・起こってほしい事



・<インバウンド> 旅の始まりはヨコハマ東口から。  
 ・旅の支度が整うアメニティを整備、土産物を揃える。

・玄関口としての機能強化  
 ・ここから出発を情報発信

**ターミナルは人々や文化の起点**

・ターミナル⇄駅 近い  
 ・色々は文化のターミナル

・通勤・通学の通過点だけにならない仕掛けをつくる  
 ・様々な交通機能が集まってくる東口となるターミナル

・家族&子どもの体験の起点  
 ・海の玄関口

・陸海空からの交通のマルチクロスポイント

**人の流れや行動を分析**

・玄関口・観光×窓口として過去・現状分析  
 ・どこに、どこから、誰が、何のために、どのくらい、いつ、何日、昼夜→どうすればよい

・どのような人が来ているのか？属性を分析  
 横浜駅の属性

**駅から海や自然を感じる工夫**

・駅が観光の玄関口になるように、横浜のシンボル「海」に繋がる場所

・ターミナル駅・水辺（海・川）財産

・水辺の街の美しさを生かし無いモノは作ってしまう

・五感（特に嗅覚）に訴えるもの ex.海匂い

・港（水辺）緑（環境）

・工業的、構築物が目立つ自然を感じられる工夫をする

・シーン（風景）、アクティビティ（水辺・海）

・明るい空間、明るい建物

**異国情緒あふれる風景**

・国際的知名度が高い  
 ・外国企業を誘致しやすい  
 ・ヨーロッパの都市のような  
 ・異国情緒あふれる風景

・広場空間  
 ・広がり  
 ・景観をみせる

✓ターミナル（駅）から、駅前広場やデッキ等の空間において、街行く人々の印象（インパクト）に残る工夫とは？

✓東口を利用（通過）する人々が足を止めたくなるような、誰もが「憩い・楽しむ」を生み出せる空間とは？

✓駅前空間で、建物とデッキが連携してより多くの人々が集い、賑わいを生む仕掛けとは？

✓駅前空間～デッキ上において、五感で海や自然を感じたり、横浜らしい歴史や文化を感じられるための工夫とは？

**横浜の歴史・既存物を活かす**

・鉄道の歴史には出てくる街なのでその歴史のわかる建物館など

・復活→路面電車（景色を見ながら乗れるので風情がある）

・水辺と上手くリンクさせる

・発展の礎となったものが沢山ある

・文化つくるのもこれから

・昔の東口の雰囲気と新しいモノの共存

・鉄道資源活用  
 ・駅の歴史  
 ・博物館  
 ・京浜本社

・有り物の掘り起こし  
 ・東横廃線  
 ・市場

**駅から始まるリテイクシティ**

・歴史は浅いけど進化している街（AI、スウェーデン）

・東口は  
 ・新しい（斬新さ）をつくるような  
 ・どちらかというとか来訪者を受け入れる（住民というより通勤・観光）  
 ・未来都市  
 ・チャレンジできる街（新しくなる街）

・将来 その先の時代を見据える  
 →車→自転車→？

**シンボル・名物をつくる**

・まちがパッと思いつくシンボル創り  
 ・札幌の時計台  
 ・大阪のグリコ看板  
 ・東京駅舎

・東口にしかない、東口でしかできないもの  
 ・場をつくる  
 食べ物、モニュメント

・印象に残るもの「モニュメント」  
 横浜駅といえば〇〇だよな

・絶えずチャレンジや挑戦を継続して行う

・ハワイにいったら⇒レイ  
 ヨコハマにいったら⇒〇〇をつくる等、ソフト面の喜び

・残したいもの  
 1. 駅前 崎陽軒  
 2. 美味しい名物 シュウマイ

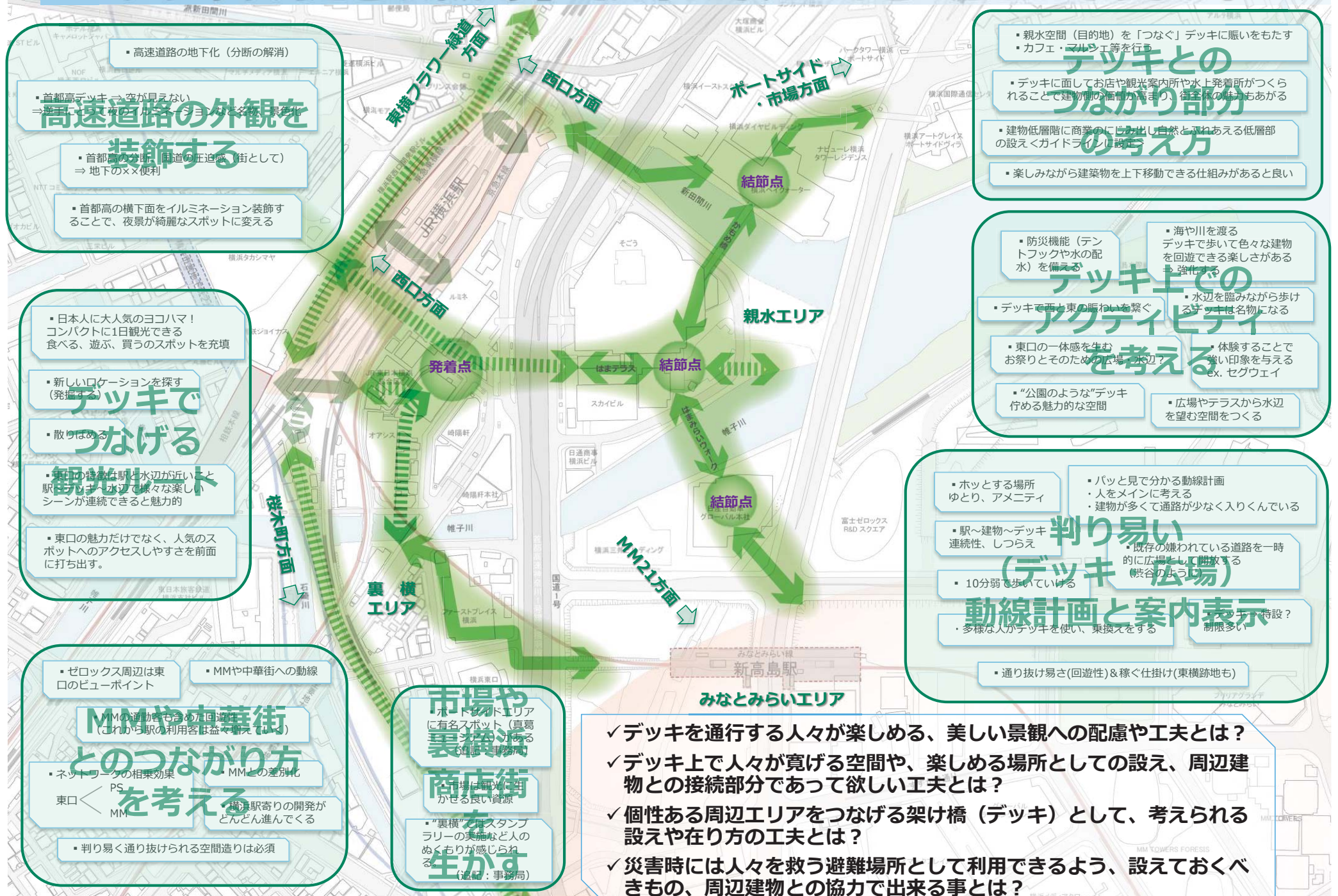
・「名物」  
 ・印象的な景色をつくると発信し易い  
 →水上交通  
 →未来の交通手段セグウェイとか  
 あたりまえに最新交通を利用している

・素敵な街には〇〇〇がある  
 ・良い匂い、美味しいお酒、旨いもの、夕日&朝日、などを堪能できるベストポイントやロケーションを整備

・食（シュウマイ市場）

・海が近いので景観を重視した街づくりを行う

# 「デッキや周辺との繋がり」で大事にしたいこと・起こってほしい事



■ 高速道路の地下化 (分断の解消)

■ 首都高デッキ ⇒ 空が見えない  
⇒ 遊歩空間の確保 (景観・景観美化)

**高速道路の外観を  
装飾する**

- 首都高の地下 (国道の圧迫感 (街として) ⇒ 地下の××便利)
- 首都高の横下面をイルミネーション装飾することで、夜景が綺麗なスポットに変える

■ 日本人に大人気のヨコハマ!  
コンパクトに1日観光できる  
食べる、遊ぶ、買うのスポットを充填

■ 新しいロケーションを探す  
(発着点)

**デッキで  
つなげる**

■ 駅の特長と水辺が近いと  
駅が水辺で様々な楽しい  
シーンが連続できると魅力的

**観光スポット**

■ 東口の魅力だけでなく、人気のス  
ポットへのアクセスしやすさを前面  
に打ち出す。

■ ゼロックス周辺は東  
口のビューポイント

■ MMや中華街への動線

**MMや中華街  
とのつながり方  
を考える**

■ ネットワークの相乗効果  
PS  
東口  
MM

■ MMとの差別化  
■ 横浜駅寄りの開発が  
どんどん進んでくる

■ 判り易く通り抜けられる空間造りは必須

**市場や  
裏横濱  
商店街  
を生かす**

■ “裏横濱”をスタンプ  
ラリーの実施など人の  
ぬくもりが感じられ  
る (注記: 事務局)

■ 親水空間 (目的地) を「つなぐ」デッキに賑いをもたす  
■ カフェ・レストラン等を行う

**デッキとの  
つながり部分  
の考え方**

- デッキに面してお店や観光案内所や水上発着所がつけられることで建物側の価値が高まり、街全体の魅力もあがる
- 建物低層階に商業の他に自然と湧きあえる低層部の設え<ガイドラインに設え>
- 楽しみながら建築物を上下移動できる仕組みがあると良い

■ 防災機能 (テントフックや水の配水) を備える

**デッキ上での  
アクティビティ  
を考える**

- 海や川を渡るデッキで歩いて色々な建物を回遊できる楽しさがある (強化)
- 水辺を臨みながら歩けるデッキは名物になる
- 東口の一体感を生むお祭りとそのための広場 (周辺)
- 体験することで強い印象を与える ex. セグウェイ
- “公園のような”デッキ 行める魅力的な空間
- 広場やテラスから水辺を望む空間をつくる

■ ホットとする場所  
ゆとり、アメニティ

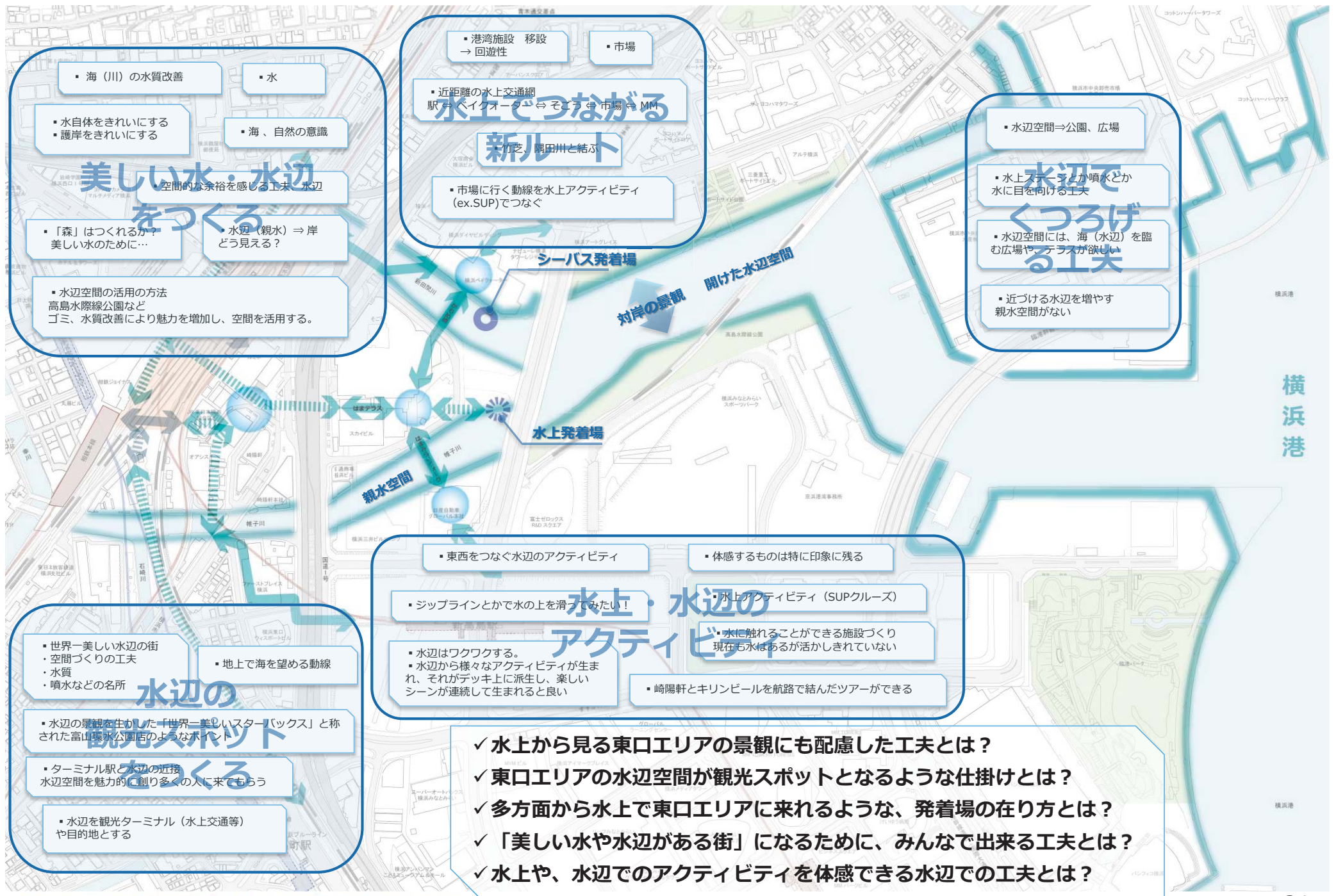
■ パツと見て分かる動線計画  
・人をメインに考える  
・建物が多くて通路が少なく入りこんでいる

**判り易い  
(デッキ・広場)  
動線計画と案内表示**

- 駅〜建物〜デッキ 連続性、しつらえ
- 10分弱で歩いていける
- 既存の嫌われている道路を一次的に広場として開放する (渋谷のように)
- 多様な人がデッキを使い、乗換えをする (デッキ特設? 制限多い)
- 通り抜け易さ(回遊性)& 稼ぐ仕掛け(東横跡地も)

- ✓ デッキを通行する人々が楽しめる、美しい景観への配慮や工夫とは?
- ✓ デッキ上で人々が寛げる空間や、楽しめる場所としての設え、周辺建物との接続部分であって欲しい工夫とは?
- ✓ 個性ある周辺エリアをつなげる架け橋 (デッキ) として、考えられる設えや在り方の工夫とは?
- ✓ 災害時には人々を救う避難場所として利用できるよう、設えておくべきもの、周辺建物との協力で出来る事とは?

# ■「水辺や親水空間」で大事にしたいこと・起こってほしい事



- 海（川）の水質改善
- 水
- 水自体をきれいにする
- 護岸をきれいにする
- 海、自然の意識

## 美しい水・水辺をつくる

空間的な余裕を感じる工夫・水辺

- 「森」はつくれるか？美しい水のために…
- 水辺（親水）⇒岸どう見える？

- 水辺空間の活用方法  
高島水際線公園など  
ゴミ、水質改善により魅力を増加し、空間を活用する。

- 港湾施設 移設 → 回遊性
- 市場
- 近距離の水上交通網  
駅 ⇄ バイクオーター ⇄ 市場 ⇄ MM
- 新ルート  
竹芝、隅田川と結ぶ
- 市場に行く動線を水上アクティビティ (ex.SUP) でつなぐ

- 水辺空間⇒公園、広場
- 水上アクティビティが噴水とか水に目を向ける工夫
- 水辺空間には、海（水辺）を臨む広場やテラスが欲しい
- 近づける水辺を増やす親水空間がない

- 世界一美しい水辺の街
- 空間づくりの工夫
- 水質
- 噴水などの名所
- 地上で海を望める動線

## 水辺の観光スポットをつくる

- 水辺の景観を生かした「世界一美しいスターバックス」と称された富山県水公園のようなポイント
- ターミナル駅と水辺の近接  
水辺空間を魅力的に創り多くの人に来てもらう
- 水辺を観光ターミナル（水上交通等）や目的地とする

- 東西をつなぐ水辺のアクティビティ
- 体感するものは特に印象に残る
- 水上アクティビティ（SUPクルーズ）
- 水上アクティビティ
- 水に触れることができる施設づくり  
現在も水はあるが活かしきれていない
- 水上アクティビティ
- 水辺はワクワクする。
- 水辺から様々なアクティビティが生まれ、それがデッキ上に派生し、楽しいシーンが連続して生まれると良い
- 崎陽軒とキリンビールを航路で結んだツアーができる

- ✓ 水上から見る東口エリアの景観にも配慮した工夫とは？
- ✓ 東口エリアの水辺空間が観光スポットとなるような仕掛けとは？
- ✓ 多方面から水上で東口エリアに来れるような、発着場の在り方とは？
- ✓ 「美しい水や水辺がある街」になるために、みんなで出来る工夫とは？
- ✓ 水上や、水辺でのアクティビティを体感できる水辺での工夫とは？

横浜港

## ■ 第3回横浜駅東口駅前空間デザイン勉強会（平成29年11月10日）

---

- 1 東口エリアの現在の魅力…… p. 33
- 2 横浜を訪れる人の属性…… p. 34
- 3 ワークショップ「東口の理想像（未来像）をイメージ」…… p. 37  
次の5グループに分かれて、テーマごとに議論をした。
  - ① 駅周辺エリア
  - ② デッキや周辺との繋がり
  - ③ 水辺・親水空間



# ■ 東口エリアの現在の魅力

・賑わいを生む活動@はまテラス



・水辺近くに感じる空間+デッキを楽しむ仕掛け「横浜ベイクォーター」



・水面に映える夜景



・イルミネーション「星降るテラス」



・歴史的建造物をモチーフにしたオブジェ「PORTA横浜三塔物語」



・昭和30年誕生崎陽軒オリジナル「ひょうちゃん」醤油さし



- 凡例 -	
	歩行者動線 (完成)
	歩行者動線 (計画)
	歩行者地下動線 (完成)
	歩行者地下動線 (計画)
	駅前広場
	水上交差点再構築 (完成)
	水上交差点再構築 (計画)

・裏横浜商店街でのプロジェクト



・駅至近の開けた水辺空間



・新高島駅



・川川香山真葛ミュージアム



・高島操車場の名残(車輪モニュメント)



・魅力的な親水空間を創出



・船上から望む臨場感ある鉄道(帷子川)



・川に面した憩えるテラス



・動線上に目を引く魅力ある展示 (日産自動車グローバル本社ギャラリー)



art & design

Water Square

market

station

amuse

・そごう屋上からの景観 (横浜港、富士山)



・アート&デザインによるまちづくり (ヨコハマポートサイド)



・ポートサイド公園



・最先端デザインの橋梁 (はまみらいウォーク)

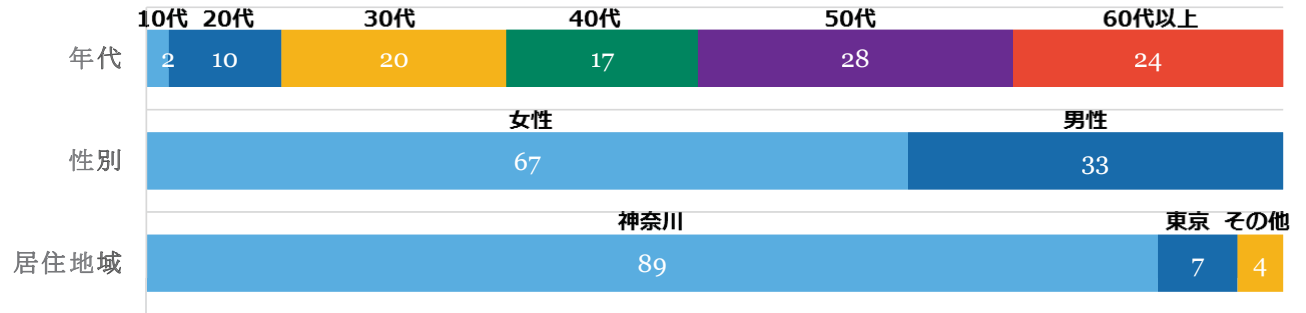


# ■ 横浜に訪れる人の属性（横浜駅利用者及び横浜市観光客調査）

## 横浜駅利用者調査（2016年 JR東日本企画調べ）

## 横浜駅“東口利用者”調査（2005～2006年 横浜商工会議所調査）【単位：％】

- ▶ 横浜駅利用者数： 442万人／週
- ・ 男性勤め人： 238万人 = 54%
- ・ 女性勤め人： 87万人 = 20%
- ・ 学生： 45万人 = 10%
- ・ その他： 72万人 = 16%

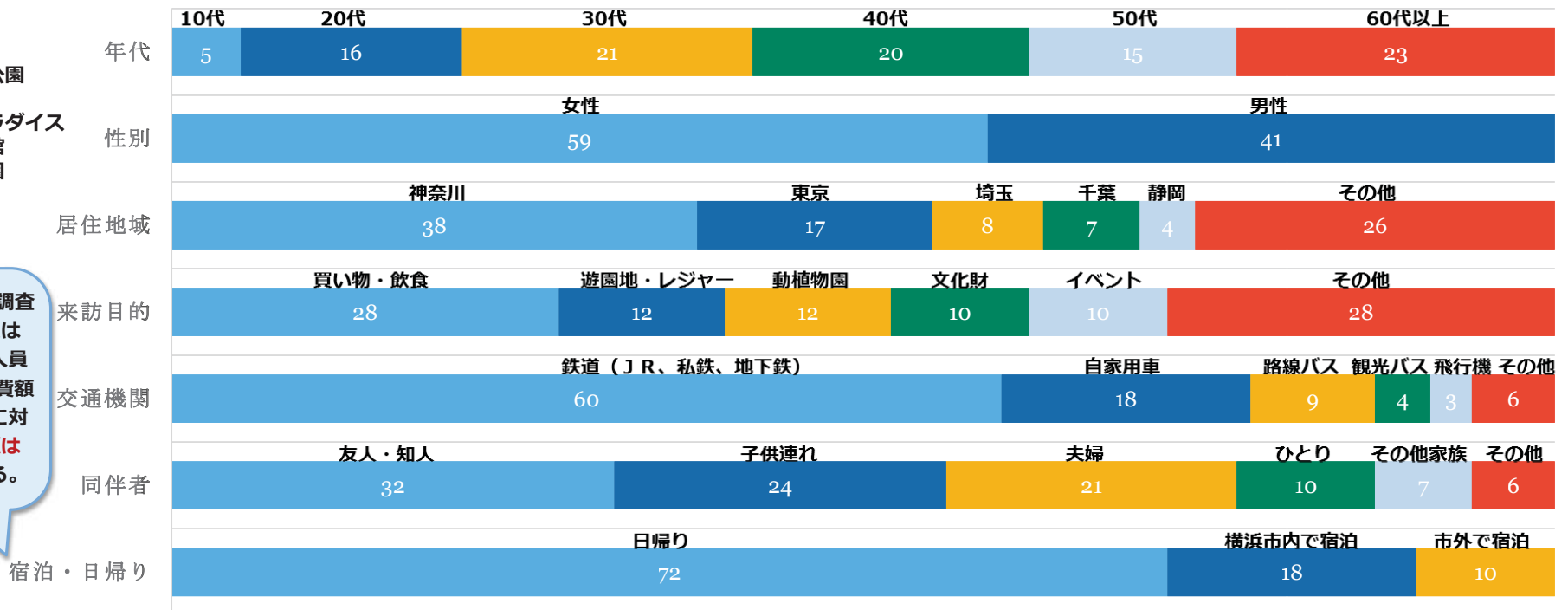


## 横浜市観光動態消費動向調査

（2016年 横浜市文化観光局調べ）【単位：％】

- ①ランドマークタワー
- ②赤レンガパーク
- ③マリンタワー
- ④山下公園
- ⑤中華街
- ⑥港の見える丘公園
- ⑦三溪園
- ⑧八景島シーパラダイス
- ⑨ラーメン博物館
- ⑩よこはま動物園

◆ 平成28年（1～12月）「観光集客実人員＝3,614万人」、「観光消費額＝3,195億円」  
 横浜市内の観光スポット(左記10ヶ所)にて来街者の調査を行った。スポットの大半が横浜駅から交通機関を利用すると約10分程度の場所に位置し、その来街者は今後、**横浜駅周辺エリアへも流れる可能性がある数値**として考えられる。



H27とH28の比較調査によると、宿泊人員は16.2%減、日帰り人員2%減だったが、消費額は宿泊客22.4%減に対し日帰り客の消費額は**18.5%増加**している。

# ■ 横浜を訪れる人の属性（横浜市来訪者調査）

（2005～2006年 横浜商工会議所調査）【単位：％】

◆ 横浜市内の観光スポット（下記10ヶ所）にて、各エリア別の来訪者調査を行った。

- ①横浜駅西口 ②横浜駅東口 ③みなとみらい ④野毛 ⑤馬車道 ⑥伊勢佐木町 ⑦中華街 ⑧山下町 ⑨元町 ⑩山手

## 性別

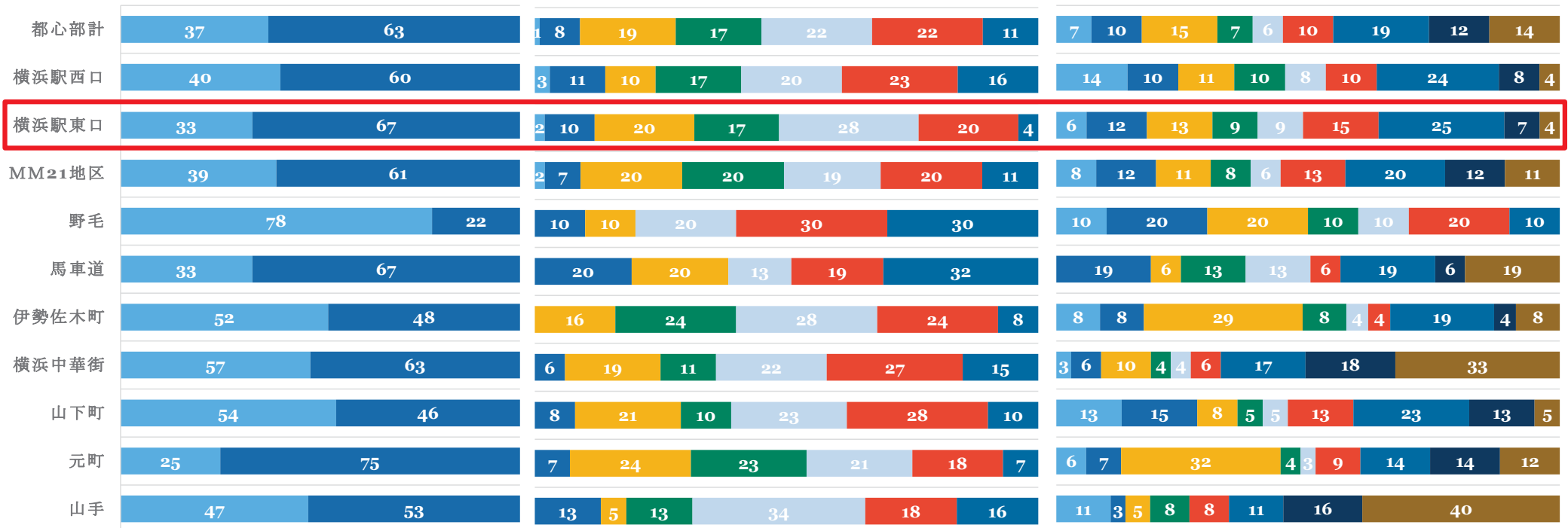
全体としては女性63.4%、男性36.6%であったが、東口は女性の割合が67.3%と高く、元町に次いで2番目。

## 年代

都心部計での年齢構成は各年代に分散した結果になっているが、東口は西口と比較すると30代と50代が10%高く、70代が10%低くなっている。

## 居住地域

全体の居住地域は神奈川県内が75%だが、横浜駅西口・東口とも県内からの来訪が約90%と高く、そのうち横浜市内居住者が約65%を占めている。



# ■ 横浜を訪れる人の属性（神奈川県外国人観光客実態調査）

（2017年1月～3月 神奈川県調査）【単位：％】

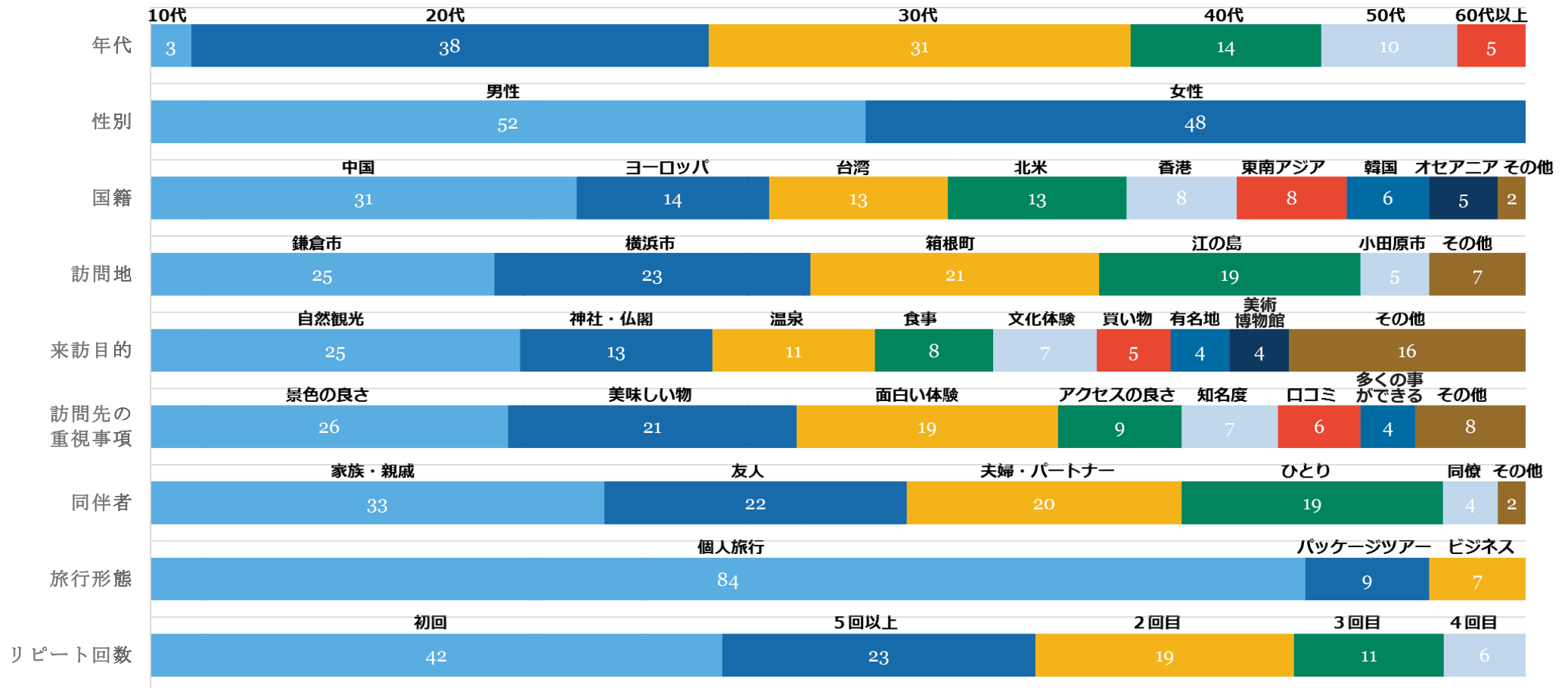
調査地点：羽田国際空港および、下記の主要観光地にて

- ①羽田空港国際線ターミナル出発ロビー
- ②神奈川県内の主要観光地；横浜、鎌倉、江の島、箱根、大山、三浦、大磯の観光施設等
- ③宿泊施設；県内のホテル、予感等の宿泊施設48ヶ所

調査対象：神奈川県に訪問した外国人旅行者

## ◆ 国際的に日本が注目されているこの好機を最大限に活かす

東京2020オリパラ開催決定など国際的に日本が注目されているこの好機を最大限に活かし、本県への外国人観光客の一層の誘致促進を図っていく必要がある。そこでこの調査は、羽田空港や県内各地域に来訪する外国人観光客の実態調査を行うことにより、本県への来訪実態を把握すると共に、戦略的なプロモーションや受入環境整備に係る施策立案のための基礎資料とする。





# ■ デッキや周辺との繋がり①

## ■ 発表要旨

- ・ 接続性。天候に左右されない場所、バリアフリーにより利用しやすいデッキとする。
- ・ 目的性。デッキを利用することによる分かり易さが大事。
- ・ 場所によって設えを変える表現などを行う。
- ・ 地下街へ行くルートも分かり易くする。
- ・ 回遊性。単に通過するのではなく、歩くことを楽しめる動線であるべき。
- ・ 移動の多様性を楽しめる空間、市場への回遊性を確保、景色を楽しめる空間。
- ・ 東横線跡地は、フラワー緑道とつながるイメージを持ち、歩く楽しみを享受できる空間。
- ・ 法規制の緩和。自由なマネジメントによりデッキを一体的に維持・管理・運営できるようにする。



# ■ デッキや周辺との繋がり②

## ■ 発表要旨

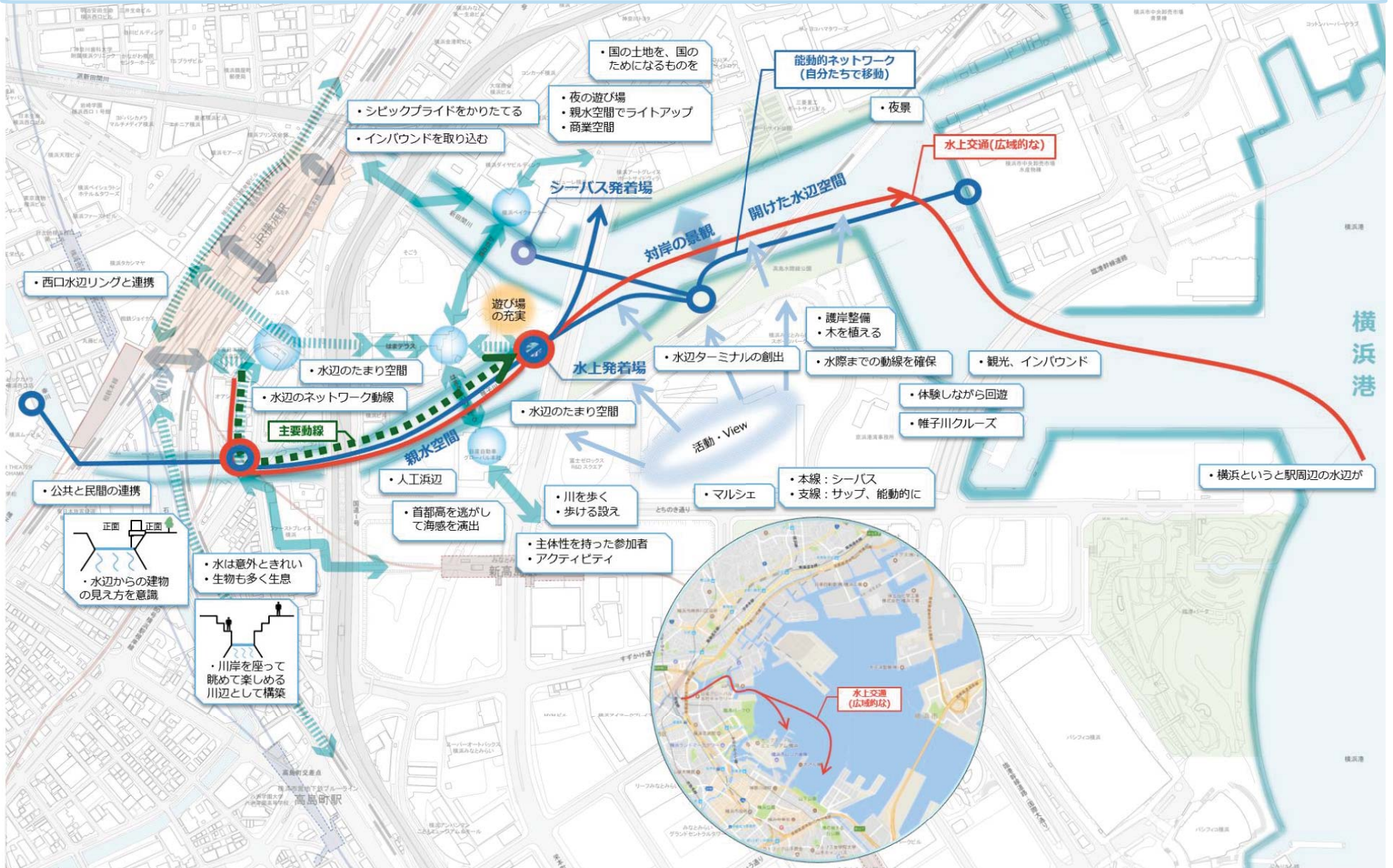
- 表現性のためには、利用者目線が大事。そのために考えることは「快適な空間を作ること」→使い勝手の快適性は雨の日の屋根など。景観上の快適性も大事にする。
- デッキは繋がって回遊性を生むことが大事。位置づけ上の取り扱いでブツ切りにならないよう、デッキ特区、法規制の緩和などでマネジメントする。
- デッキと隣接する建物や施設との融合を図る。一体運営。あいまいな空間をマネジメントし、そこで得る収益をネットワーク全体に還元してさらに良くしていく。
- 結節点は広場のように集まれる場にし、賑わいの場として確保し、例えば広告設置等で収益を上げるなど、エリアへ還元していく。
- デッキの移動はシームレスでバリアフリーにする。新高島までつなぐ。床上には新しい技術によるサインシステム。
- 横浜らしさを残す東横線跡地はハイラインのような、賑わいある鉄道跡地歩道として活用。



# ■ 水辺・親水空間①

## ■ 発表要旨

- 東口の奥（オアシス検討エリアの帷子川）から海に向かう動線を大事にし、水辺の回廊を作っていく。
- 今の護岸を改善し、海辺に向かって賑わいある空間へ誘導していく。
- 出島の水上発着所の使い方を活性化するため、河口部をコンパクトな交通が行き交えるようにする。
- 水辺のターミナルを作り、水上交通を体験することで、東口の良さを来訪者が体感できる。
- 西口で行われているミズベリングと連携するなどし、川との接点を増やすことでシビックプライドの情勢を図る。
- 観光客をメインターゲットとし、都市の近接する楽しめる空間を形成する。



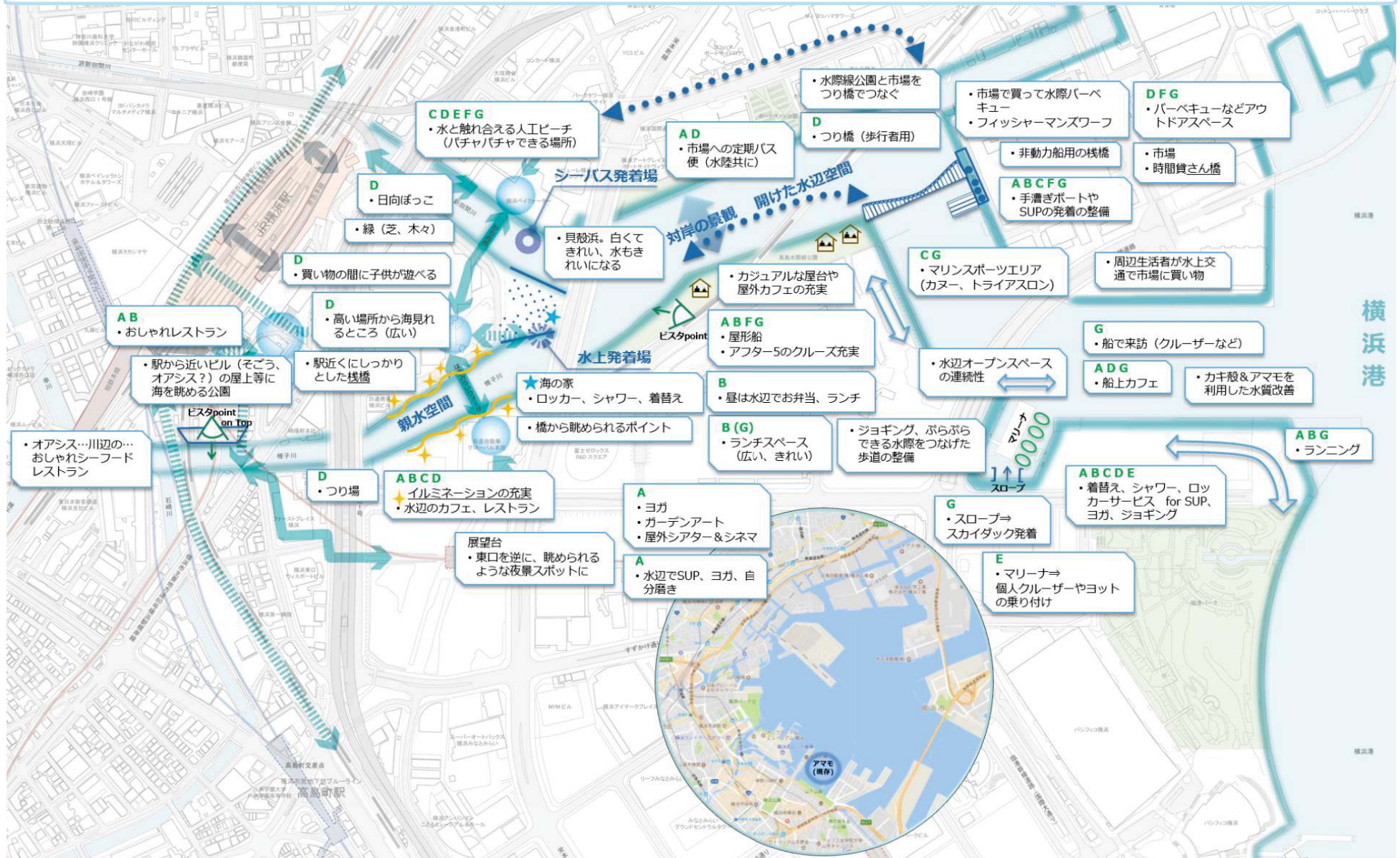


# ■ 水辺・親水空間②

## ■ 発表要旨

- 水辺で遊ぶ空間づくりをする。SUPで水に近づける施設として、栈橋などを整備する。
- 港湾エリアまでの川沿いを快適にランニングできるような、歩道空間を整備していく。
- 手漕ぎボートや屋形船の充実や、SUPやカヌーで近づける施設として栈橋などを整備する。
- 水上交通発着所には食事施設を設け来街者、就業者がランチを楽しめるような施設とする。

- 水着になれるような（リラックスできる、あるいは自然を楽しめる）空間づくりをし、人々に開かれた水辺とする。
- 河川を使って市場へ直線的に行けるルートを整備する。エンタメにもなり来街者への話題づくりに貢献する。
- 水質を改善し前述のような水と親しまれる空間づくりを促進する。



## ■ 第4回横浜駅東口駅前空間デザイン勉強会（平成30年1月15日）

---

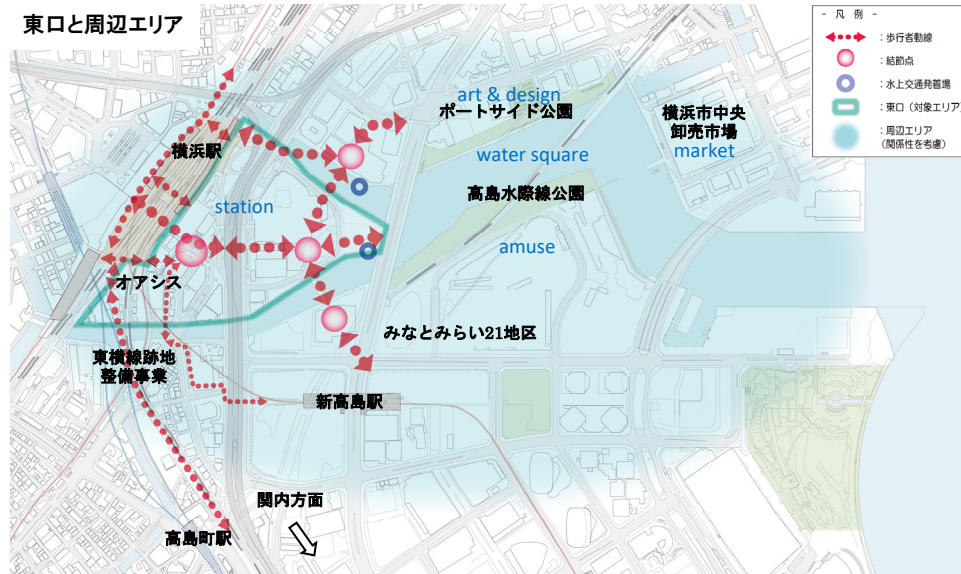
- 1 第3回勉強会のまとめ
- 2 中間（案）とりまとめ

## ■ 第5回横浜駅東口駅前空間デザイン勉強会（平成30年2月28日）

---

- 1 第4回勉強会のまとめ
- 2 東口デザインコンセプトとりまとめ【計画する際の参考】
- 3 まちづくりガイドライン・ホームページへの掲載方法について
- 4 今後の進め方  
(アーバンデザイン部会やガイドライン検討会への付議)

# ■ 東口デザインコンセプト –はじめに– 【計画する際の参考】



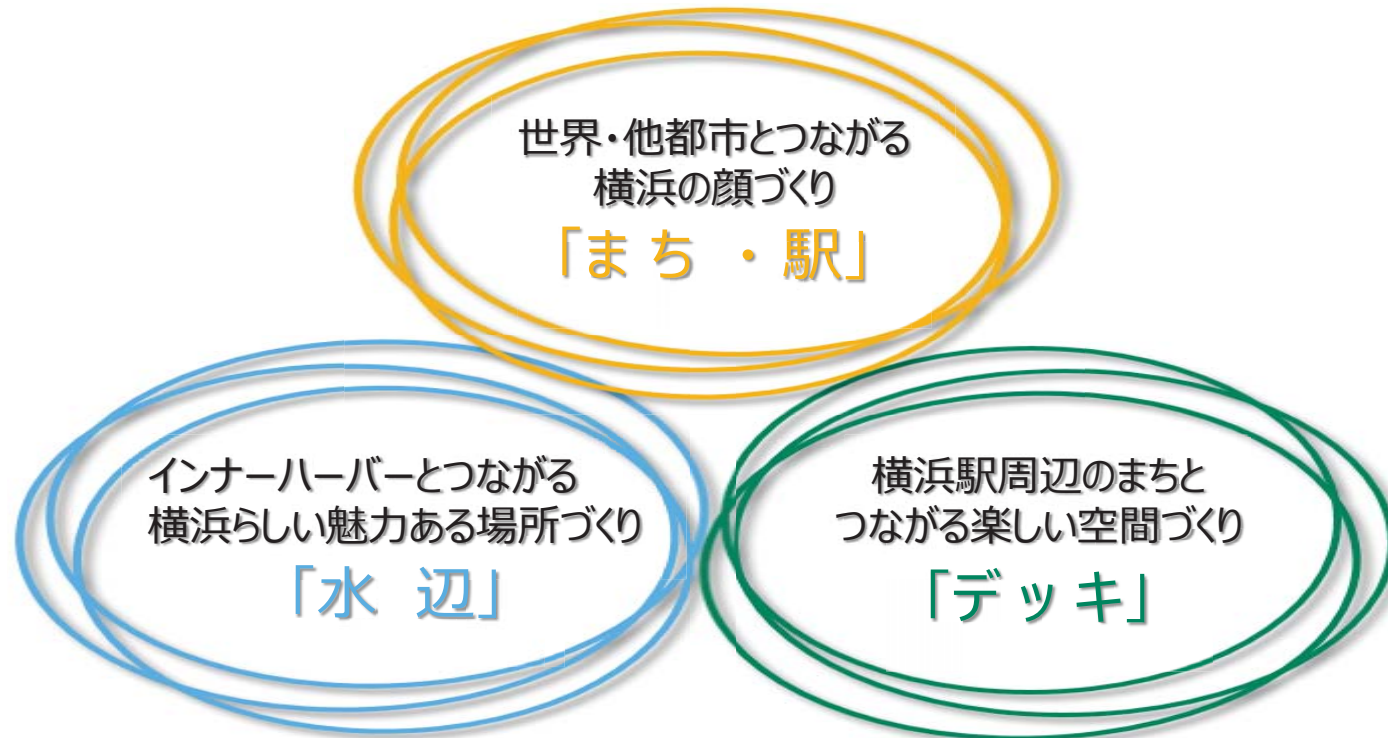
- 横浜駅周辺は開港当時、東海道沿いまで海が迫っていた。日本初の鉄道建設にあたり海を渡る堤を築造、その後は海側の埋立てが進められた。大正12年の関東大震災で市街地は一度焼失したが、昭和3年には「東洋一新横浜駅」と報じられた3代目横浜駅が現在地に開業し、東口は「横浜の玄関口」となった。
- 昭和20年には横浜大空襲および戦後の接收と困難な時代を迎えたが、昭和27年以降、接收解除された西口では川の埋立てを伴う土地区画整理事業が実施され、大規模商業施設等が建設された。東口でも昭和55年に地下街、昭和60年代には大規模商業施設等が建設されるなど、常に活力に溢れた魅力的な街となっている。

- 横浜駅周辺の発展とともに、東口を中心とした交通機能も充実してきた。昭和61年に運航を開始したシーバスは、東口と横浜港周辺観光地を結ぶ水上航路となっている。また、平成8年にY C A T移転、平成22年には京浜急行電鉄のエアポート急行運行開始で羽田空港へのアクセスも強化されたほか、都市間高速バスも運行しており、海外や他都市からの「横浜の玄関口」機能を担っている。
- 将来に目を向ければ、東口については「Open Sky Terminal」をコンセプトに掲げ、線路上空デッキの検討および整備、国道1号横断デッキの拡充、東口駅前広場の再編、観光ターミナルの形成および水上交通の拠点整備、民間においてはステーションオアシス等の開発が、それぞれ「エキサイトよこはま22」に位置付けられている。また、駅周辺のデッキ整備などにより西口方面や東横線跡地整備事業からみなとみらい21地区へ東口を經由してつながる経路が確保される予定である。
- さらに、2020年までに羽田空港の飛行経路見直し等による機能強化や、2021年度には徒歩圏内であるみなとみらい21地区に2万人規模の音楽専用アリーナおよび大学施設の竣工が予定され、今まで以上に東口を多くの人々が行き来し利用することが予測される。
- 一方で、首都高速道路等により横浜駅から海への眺望が遮られているなか、駅近くに水辺があることを感じさせるような施設や仕掛けを増やすことや、隣接しているみなとみらい21地区や横浜市中央卸売市場等との積極的な連携を図っていくことが求められている。
- そこで、将来の基盤整備や周辺開発計画および、東口が持っている帷子川や海に面しているという豊かな自然環境、魅力あるエリアに隣接しているというポテンシャルを十分に生かすことで、世界、他都市、インナーハーバーや周辺地区に開かれた、新しい魅力を常に生み出す東口のさらなる成長を目指して、横浜駅東口デザインコンセプト「EAST WATER GARDEN ～つぐまち ひらくまち～」を策定する。

2018年（平成30年）

## EAST WATER GARDEN ~つぐまち ひらくまち~

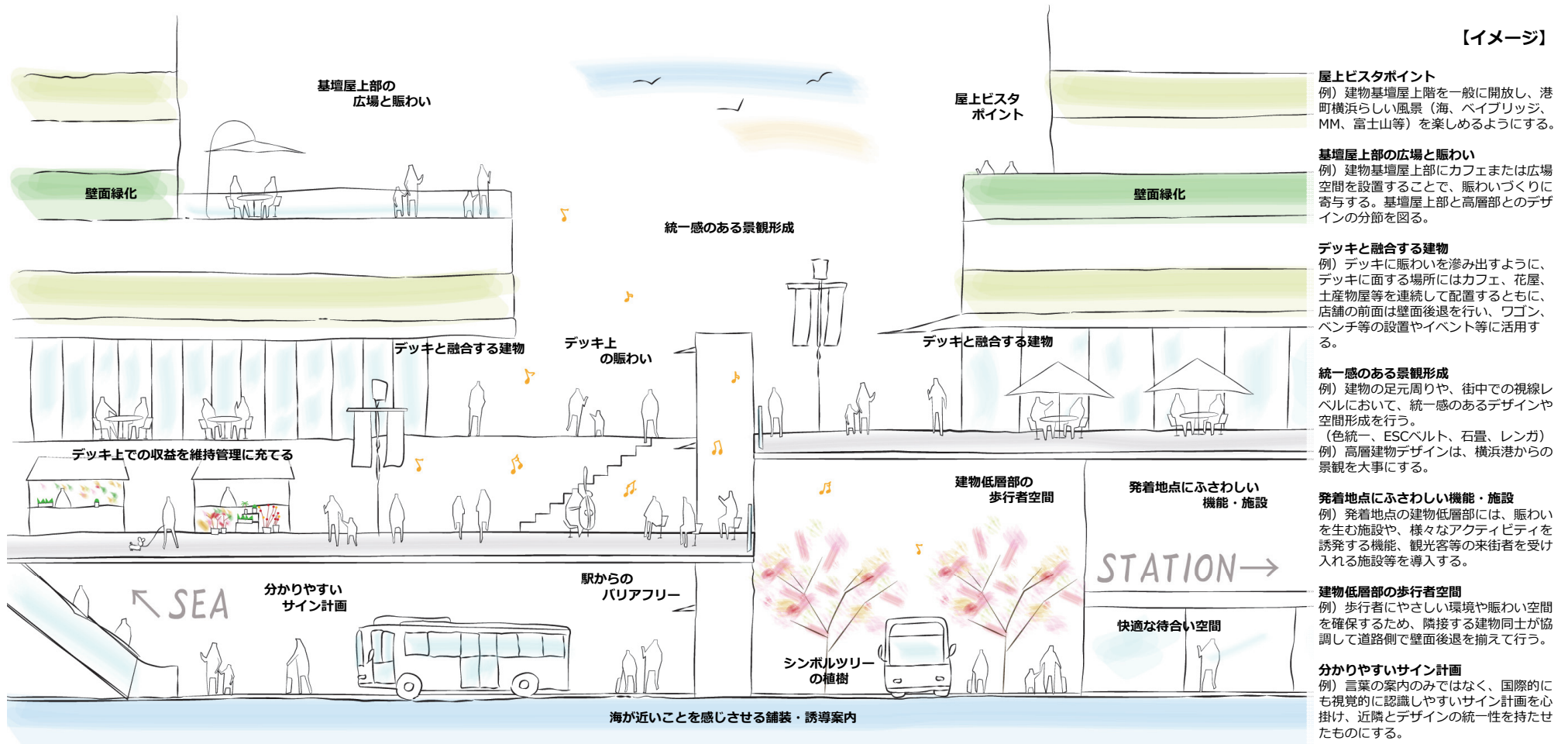
- 国際交流の玄関口として港湾の発展とともに近代化した横浜市の中心である「横浜駅東口」は、常に新しい魅力を発信して、世界・他都市からの多様な人々を惹きつける
- 横浜のインナーハーバーをつなぐ「水辺空間」は、横浜らしい魅力を発揮する場所として、街に来る人が水を感じ体感できる
- みなとみらい21地区など魅力的な周辺地区とつながる「デッキ」は、快適で回遊性の高い歩行者空間として、訪れる誰もが歩いて東口を楽しめる



# ■ 東口デザインコンセプト -コンセプト- 【計画する際の参考】

➤ 国際交流の玄関口として港湾の発展とともに近代化した横浜市の中心である「横浜駅東口」は、常に新しい魅力を発信して、世界・他都市からの多様な人々を惹きつける

- 誰もが心地よく快適に、移動や滞在を楽しむことができる玄関口を形成する。
- 「みなとまち 横浜」を感じられる空間を形成し、ヒューマンスケールでの美しい景観を創出する。
- 発着地点に相応しい賑わいを感じられ、活力を生み出す施設の立地や機能を導入する。



【イメージ】

**屋上ピスタポイント**  
例) 建物基壇屋上階を一般に開放し、港町横浜らしい風景(海、ベイブリッジ、MM、富士山等)を楽しめるようにする。

**基壇屋上部の広場と賑わい**  
例) 建物基壇屋上部にカフェまたは広場空間を設置することで、賑わいづくりに寄与する。基壇屋上部と高層部とのデザインの分節を図る。

**デッキと融合する建物**  
例) デッキに賑わいを滲み出すように、デッキに面する場所にはカフェ、花屋、土産物屋等を連続して配置するとともに、店舗の前面は壁面後退を行い、ワゴン、ベンチ等の設置やイベント等に活用する。

**統一感のある景観形成**  
例) 建物の足元周りや、街中の視線レベルにおいて、統一感のあるデザインや空間形成を行う。  
(色統一、ESCベルト、石畳、レンガ)  
例) 高層建物デザインは、横浜港からの景観を大事にする。

**発着地点にふさわしい機能・施設**  
例) 発着地点の建物低層部には、賑わいを生む施設や、様々なアクティビティを誘発する機能、観光客等の来街者を受け入れる施設等を導入する。

**建物低層部の歩行者空間**  
例) 歩行者にやさしい環境や賑わい空間を確保するため、隣接する建物同士が協調して道路側で壁面後退を揃えて行う。

**分かりやすいサイン計画**  
例) 言葉の案内のみではなく、国際的にも視覚的に認識しやすいサイン計画を心掛け、近隣とデザインの統一性を持たせたものにする。



